

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第660集

まつ いそ
松磯遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2016

国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

松磯遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県上閉伊郡大槌町吉里々々第13地割の三陸沿岸道路に関連して、平成25年度および平成26年度に発掘調査を実施した、松磯遺跡の調査成果をまとめたものです。

今回の調査で本遺跡は縄文時代前期から中期のフラスコ状土坑を含む土坑群と焼土遺構、縄文時代前期前葉から中期後葉に亘る遺物包含層が確認されました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所、大槌町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成28年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 菅野洋樹

例　　言

- 1 本報告書は岩手県上閉伊郡大槌町吉里々々第13地割字松磯3ほかに所在する松磯遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号はMG23-1354、遺跡略号はMI-13、MI-14である。
- 4 野外調査及び室内整理期間、調査担当者は以下の通りである。

平成25年度調査

野外調査　期間 平成25年8月1日～10月15日　面積 3,600m²

担当者 巴 亜子 西澤正晴 塩谷龍平

室内整理　期間 平成25年10月16日～11月29日 平成26年1月16日～3月31日

担当者 巴 亜子

平成26年度調査

野外調査　期間 平成26年11月17日～11月28日　面積 450m²

担当者 米田 寛 鈴木貞行 佐藤直紀

室内整理　期間 平成26年12月1日～平成27年1月15日

担当者 巴 亜子

- 5 本報告書の作成は、巴が本文原稿・遺構・遺物図化を行った。また、I調査に至る経過は国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所、VI自然科学分析を株式会社加速器分析研究所が行った。全体の編集・校正は巴が行った。

- 6 石質鑑定は花崗岩研究所に依頼し、座標原点の測量は有限会社スカイ測量設計に、空中写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。

- 7 本書では、国土地理院発行の1/50,000「大槌」、1/25,000「大槌」の地形図・地勢図を利用した。

- 8 野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関からご指導・ご助言をいただいた。

大槌町教育委員会

- 9 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

- 10 調査成果は、当センターホームページ、調査概報等に発表してきたが、本書が優先するものである。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地・環境	3
1 遺跡の位置	3
2 地理的環境	3
3 遺跡周辺の歴史的環境	3
4 基本層序	6
III 調査の方法と整理方法	7
1 野外調査	7
2 室内整理	8
IV 検出遺構	10
1 土坑	10
2 焼土遺構	19
3 遺物包含層	20
V 出土遺物	31
1 縄文土器	31
2 石器	32
3 鉄製品	33
VI 松磯遺跡における放射性炭素年代(AMS法)	57
1 測定対象試料	57
2 化学処理工程	57
3 測定方法	57
4 算出方法	57
5 測定結果	58
VII まとめ	60
報告書抄録	81

図版目次

第1図 道路位置図	2	第17図 道構内・遺物包含層出土遺物（22～36）	37
第2図 地形分類図	4	第18図 遺物包含層出土遺物（37～58）	38
第3図 周辺遺跡	5	第19図 遺物包含層出土遺物（59～81）	39
第4図 基本土層図	6	第20図 遺物包含層出土遺物（82～126）	40
第5図 道構配置図	20	第21図 遺物包含層出土遺物（127～157）	41
第6図 1～3号土坑	23	第22図 遺物包含層出土遺物（158～182）	42
第7図 4～6号土坑	24	第23図 遺物包含層出土遺物（183～195）	43
第8図 7～10号土坑	25	第24図 遺物包含層出土遺物（196～214）	44
第9図 11～15号土坑	26	第25図 遺物包含層出土遺物（215～222）	45
第10図 16～19号土坑	27	第26図 遺物包含層出土遺物（223～248）	46
第11図 20～24号土坑	28	第27図 出土遺物（249～256）	47
第12図 25～27号土坑	29	第28図 出土遺物（257～265）	48
第13図 28・29号土坑、1号焼土	30	第29図 出土遺物（266～272）	49
第14図 道構内出土遺物（1～6）	34	第30図 出土遺物（273～283）	50
第15図 道構内出土遺物（7～19）	35	第31図 历年較正年代グラフ（参考）	59
第16図 道構内出土遺物（20・21）	36		

表目次

第1表 周辺遺跡一覧	5	第5表 石器觀察表	55
第2表 道構観察表	21	第6表 鉄製品觀察表	56
第3表 遺物包含層重量表	22	第7・8表 放射性炭素年代測定結果	58・59
第4表 土器觀察表	51		

写真図版目次

写真図版1 調査区遠景	62	写真図版11 出土遺物（1～14）	72
写真図版2 基本土層・完掘状況	63	写真図版12 出土遺物（15～32）	73
写真図版3 1～4号土坑	64	写真図版13 出土遺物（33～66）	74
写真図版4 5～8号土坑	65	写真図版14 出土遺物（67～131）	75
写真図版5 9～12号土坑	66	写真図版15 出土遺物（132～185）	76
写真図版6 13～16号土坑	67	写真図版16 出土遺物（186～214・216）	77
写真図版7 17～20号土坑	68	写真図版17 出土遺物（215・217～249）	78
写真図版8 21～24号土坑	69	写真図版18 出土遺物（250～266）	79
写真図版9 24～27号土坑、作業風景	70	写真図版19 出土遺物（267～283）	80
写真図版10 28・29号土坑、1号焼土、作業風景	71		

I 調査に至る経過

松磯遺跡は、三陸沿岸道路「釜石山田道路」の道路改築事業に伴い、その事業域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路「釜石山田道路」は、岩手県釜石市甲子町第13地割（釜石JCT（仮））から岩手県下閉伊郡山田町船越（山田南IC）を結ぶ延長約23kmの自動車専用道路であり、この区間のうち、釜石両石IC～釜石北IC間（延長約4.6km）は平成23年3月5日に供用している。

また、釜石JCT（仮）において東北横断自動車道釜石秋田線（釜石～花巻）と連結している。当該道路は、平成元年8月8日に基本計画決定、平成9年2月5日に整備計画決定され、平成15年度に事業化したところである。

当該区間の現道国道45号には「恋の岬」という急勾配、急カーブの交通の難所があり、この難所の早期解消を目的に釜石両石IC～釜石北IC間（延長約4.6km）について先行的に整備を行い、平成23年3月5日に開通、その6日後の3月11日に東日本大震災の津波が太平洋沿岸を襲ったところであるが、岩手県釜石市鶴住居地区の小学校・中学校の生徒等570名の津波からの避難場所、避難経路として機能した。

釜石山田道路をはじめ三陸沿岸道等の既に供用していた区間は、東日本大震災時において救助・救援や支援物資の輸送など「命の道」としての機能を発揮したとともに、新たに事業化が決定された復興道路・復興支援道路と併せ、東日本大震災からの早期復興への貢献、現道の溢路解消、交通混雑の緩和、交通安全の確保及び走行性・利便性の向上により地域間交流の促進や拠点間の連携強化、物流の効率化、定時性・速達性の確保により地域の産業・経済・観光等への貢献が期待されている。

さらに救急医療施設への救急搬送時間の短縮や医療施設間の連携強化、災害時の救助・救援活動の支援により地域の安全・安心の確保に資するものである。

また、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とする「岩手県東日本大震災津波復興計画」の3つの原則のひとつ「安全の確保」においても、「災害時の確実な緊急輸送や代替機能を確保した信頼性の高い道路ネットワーク」を構築する幹線道路ネットワークとして位置づけられている重要な社会基盤である。

当該道路事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成24年11月12日付け国東整南陸調品確第49-11号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課あて試掘調査の依頼を行った。岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課では、平成24年12月25日から平成25年1月18日の間において試掘調査を実施し、平成25年1月22日付け教生第1515号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により、埋蔵文化財が確認されたことから発掘調査が必要となるので工事に先立ちその取扱について岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と協議するよう回答があった。その回答を受けて南三陸国道事務所では、平成25年2月25日付け国東整南陸調品確第1062-6号「道路事業における埋蔵文化財の発掘調査について」により発掘調査を依頼したことである。

その結果、岩手県教育委員会教育長から平成25年3月14日付け教生第1717号「平成25年度埋蔵文化財発掘調査事業について」により（公財）岩手県文化振興事業団から提出された計画書に基づき協議及び契約事務を振り進めのように通知があったことから、（公財）岩手県文化振興事業団と協議を経て平成25年4月1日付けで発掘調査に係る委託契約を締結、調査を実施することとなったものである。

（国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所）



第1図 遺跡位置図

II 遺跡の立地・環境

1 遺跡の位置（第1図）

松磯遺跡は、上閉伊郡大槌町吉里々々第13地割に所在し、JR山田線浪板海岸駅より北へ1kmに位置する。大槌町は北上山地中央の東端にあり、南は釜石市、西は遠野市・宮古市、北は山田町と接している。遺跡は船越湾に面した緩斜面上に立地する。標高は49～67mで、現況は山林である。

国土地理院発行の5万分の1地形図「大槌」、2万5千分の1地形図「大槌」の図幅中に含まれ、緯度・経度上の位置は、北緯39度23分20秒、東經141度56分19秒付近である。

2 地理的環境（第2図）

岩手県の面積の3分の2を占める北上山地は、青森県八戸市付近から宮城県牡鹿半島まで、南北約250km、東西約80kmの劔錐形の広がりをもつ。古生層・中世層とこれを貫くように介在する花崗岩類から構成され、準平原化した老年期山地が再隆起したもので、緩やかな丸みを帯びた尾根が連なる。最高峰は、ほぼ中央に位置する早池峰山(1,914m)である。東縁は太平洋に接し、山塊と海が織り成す風光明媚な環境は、「陸中海岸」として国立公園の指定を受けている。このうち、宮古～気仙沼間は大小の湾と岬が複雑に入り組み、典型的なリアス式海岸地形を呈し、その規模は日本最大である。それぞれの岬は標高300～400mの安定性を示し、湾頭には小河川が流入して氾濫平野および谷底平野を形成している。沿岸地方の市町村は、この氾濫平野および谷底平野に立地し大槌町の市街地も大槌川・小槌川による氾濫平野に形成されている。この地域では海岸段丘、河岸段丘とともに発達が悪く、海岸段丘は霞ヶ岳半島の一部に観察されるにすぎず、河岸段丘も大槌川・小槌川の中～上流部に小規模なもののが分布し、氾濫原もごく狭い。下流部には、両側の山地からの沢によって形成された小規模な崖錐性扇状地がいくつかみられる。

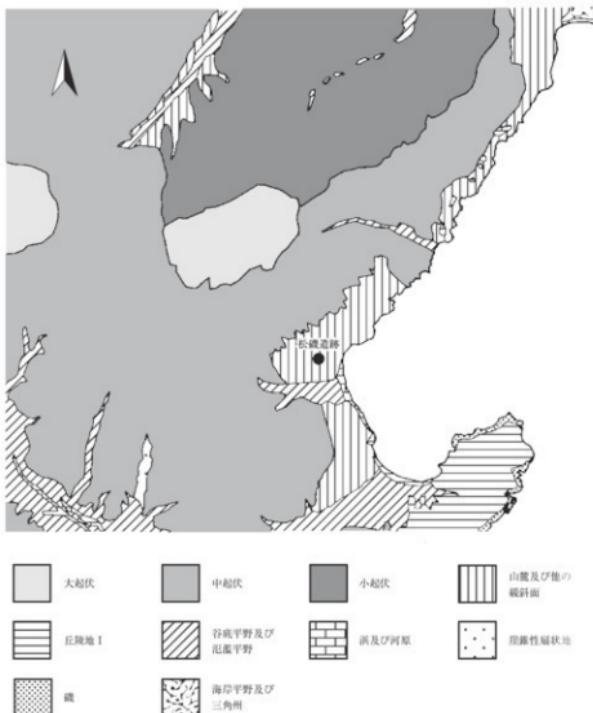
松磯遺跡は山麓・緩斜面に位置しており、周辺では中起伏山地が続いており大槌川・小槌川と同様に浪板不動の滝を水源とする浪板川による谷底平野・氾濫平野が確認できる。周辺の遺跡は山麓・緩斜面・谷底平野・氾濫平野に分布する。

3 遺跡周辺の歴史的環境（第3図）

平成26年3月の段階では大槌町内には約100遺跡が確認されている。松磯遺跡の南側約3km範囲を図示した。

松磯遺跡は山麓・緩斜面に位置している。松磯遺跡（1）は今回調査した範囲と異なるため、別遺跡として掲載した。周辺には田屋遺跡（2）がある。

縄文時代の遺跡は山麓・緩斜面に多く、図示した範囲の中で9遺跡確認されている。崎山弁天遺跡（19）では早期から晩期まで、角地遺跡（9）では早・前期の遺物が出土している。松磯遺跡・田屋遺跡では前期の遺物が出土している。中期の遺物が松磯遺跡・崎山弁天遺跡・菖蒲ヶ沢遺跡（6）で確認されている。北田遺跡（14）では後期の土器片が、吉里吉里Ⅱ遺跡（24）では晩期の遺物が出土している。



第2図 地形分類図 (S=1/50,000)

崎山弁天遺跡は昭和46年、松磯遺跡は昭和54年の調査で貝層が確認されている。松磯遺跡では貝輪や骨角器が出土している。遺物から縄文時代前期後半を主体とする遺跡であることが分かった。

古代の遺跡は、崎山弁天遺跡と花道遺跡(25)である。崎山弁天遺跡では須恵器が、花道遺跡からは須恵器が出土している。

中世の遺跡は丘陵地や山麓に位置している。新城館(13)、新館(17)、向館(20)、町指定史跡の田中館(芳賀館)(22)である。これらの館は芳賀氏の館であり、慶長の頃南部氏の領内海辺通りを切り取りにかかった仙台勢の兵船数艘の来襲があり、土豪芳賀氏は田中館と向館とによって防戦につめたが、火攻めにされて田中館は落城、新城館へ撤退する。その後、味方の人数も馳せ集まり、仙台勢を打ち払ったという。芳賀氏はのちに新城館から新館に移っている。いずれも平場・帯廓が確認されている。また、向館では平場・帯廓のほかに空堀も確認されている。

近世の遺跡は碇川砲台跡(11)、アサガ尻砲台跡(12)、古寺遺跡(15)、前川善兵衛歴代の墓(18)、赤沼経塚(21)、塚ノ鼻一里塚(27)、吉里吉里坂(29)がある。前川善兵衛歴代の墓は町指定史跡に指定されている。前川善兵衛は江戸時代に南部藩の御用商人として富豪を誇り、南部藩の財政を陰で



第3図 周辺遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物		番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	
				遺構	遺物					遺構	遺物
1	松瀬	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）。骨角器、貝		16	吉里吉里Ⅲ	散布地	不明	鉄滓、縄文土器	
2	田屋	散布地	縄文～	石器、鉄滓、縄文土器（前期）		17	新船	城廻路	中世	平場、帶郭	
3	柏山	散布地	不明	鉄滓、羽口		18	前南羌兵衛代の墓	史跡	近世	町指定史跡 経石	
4	マンボウ	散布地	縄文～	鉄滓、縄文土器		19	崎山育矢	散布地	縄文・古墳	縄文土器（早前・中後期）、須恵器、貝塚	
5	カーラゲ平	散布地	不明	鉄滓、羽口		20	向熊	城廻路	中世	平場、帶郭、空塗	
6	眞瀬ヶ沢	散布地	縄文	縄文土器（中期）		21	赤沼経塚	経塚	近世	経石、埋経碑	
7	白石	散布地	不明	縄文土器（後期）		22	田中塚（芳賀頭）	城廻路	中世	町指定史跡 平場、帶郭	
8	企敷排	散布地	不明	鉄滓、羽口		23	三日月	散布地	縄文	縄文土器	
9	角地	散布地	縄文～	縄文土器（早・中期）、鉄滓、鉄石		24	吉里吉里Ⅱ	散布地	不明	鉄滓、縄文土器（晚期）	
10	尚山	散布地	不明	鉄滓、羽口		25	花道	散布地	縄文～	縄文土器、鉄滓、羽口、土器	
11	鏡川砲台跡	史跡	近世	土壘		26	細中	散布地	不明	鉄滓	
12	アサガ瓦越白塚跡	史跡	近世	平場、石塙		27	塚ノ鼻一星塚	一星塚	近世	塚ノ鼻	
13	新城館	城廻路	中世	平場、帶郭		28	吉里吉里Ⅰ	散布地	不明	鉄滓、羽口	
14	北田	散布地	底部	鉄滓、羽口、縄文土器（後期）		29	吉里吉里坂	史跡	近世	切り通し	
15	古寺	社寺跡	縄文	平場、墓石							

支えた人物である。碇川砲台場跡やアサガ砲台場跡と近世の海防に関わる遺跡が集中している。

時期不明であるが、和山遺跡（3）、カラゲ平遺跡（5）、金敷棒遺跡（8）、向山遺跡（10）、北田遺跡、吉里吉里Ⅲ遺跡（16）、畠中遺跡（26）、吉里吉里Ⅰ遺跡（28）では羽口、鉄滓が確認されており、今回図示した範囲では確認されていないが、鉄生産を行っていた可能性が考えられる。

4 基本層序（第4図）

調査区は、尾根部・尾根から下る斜面部・斜面下の平坦部で構成される。本遺跡の基本層序は、欠損層がなく、残存状態の良い平坦部に設定した2トレンチを基準として以下のように設定した。

I層：表土：腐植土層

II層：10YR1.7/1 黒色土 シルト しまり中 粘性中 遺物を包含する

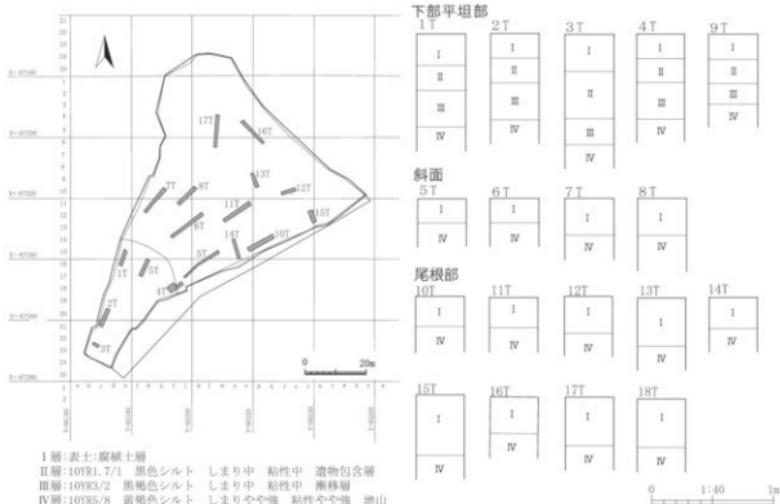
III層：10YR3/2 黒褐色土 シルト しまり中 粘性中 漸移層

IV層：10YR5/8 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強 粘性やや強 地山

II層は平坦部でのみ確認できる遺物包含層で、層厚は20～40cmである。標高が低いほどII層の層厚は厚くなる。遺物は縄文時代前期から中期後半まで確認できたが、中期中葉が主体である。

III層は漸移層であり、平坦部のみ確認できた。

IV層は地山である。斜面部では直径3mm程度の風化花崗岩の粒子を確認できた。



第4図 基本層図

III 調査の方法と整理方法

1 野外調査

(1) 面積と名称

調査面積は当初 3,000 m²であったが、調査時に計測したところ 3,600 m²であった。調査区の東側約 450 m については伐採等の都合により、平成 26 年度調査へ持ち越しとなった。平成 25 年度、26 年度の調査面積は合計 4,050 m²である。調査区は地形により尾根部・尾根から下る斜面部（以下斜面部）・平坦部と仮称した。

(2) 調査区の区割り

調査区外に任意に打設した 3 級杭 2 点の世界測地系の座標を用いて調査区全体を網羅するよう設定した。任意の原点より 100 × 100m の大グリッドを設定し、南北方向に北から I ・ II とローマ数字をあて、東西に A ・ B … とアルファベット大文字をあてた。また 4 × 4 m の小グリッドも併せて設定した。小グリッドは南北に 1 ・ 2 … と算用数字を、東西に a ・ b … とアルファベット小文字をあてた。区画左上（北西隅）の杭をもって、その区画のグリッドの名称を表し、遺構の位置や遺物採集においては大小のグリッドの組み合わせで II A 1 a グリッドなどと表した。調査区内に打設した杭の座標は以下の通りである。

基 1 : X=-67248.417 Y=95162.458 Z=54.185m 基 2 : X=-67165.102 Y=95202.306 Z=67.532m
No 1 : X=-67174.000 Y=95208.000 Z=66.112m No 2 : X=-67200.000 Y=95200.000 Z=62.667m
No 3 : X=-67220.000 Y=95254.000 Z=57.537m No 4 : X=-67272.000 Y=95170.000 Z=49.920m

また、平成 26 年度調査にあたっては再度任意に打設した 3 級杭 2 点の世界測地系の座標を用いて、前年度の同様のグリッドを設定した。平成 26 年度に調査区内に打設した杭の座標は以下の通りである。

基 1 : X=-67.221.554 Y=95213.999 Z=60.993m 基 2 : X=-67.248.040 Y=95.171.795 Z=53.698m
No 1 : X=-67252.000 Y=95200.000 Z=53.445m No 2 : X=-67240.000 Y=95220.000 Z=56.392m
No 3 : X=-67.260.000 Y=95121.000 Z=54.303m No 4 : X=-67.248.000 Y=95140.000 Z=53.902m

(3) 粗掘・遺構検出と遺構精査と遺物取り上げ

最初に県教育委員会生涯学習文化課により実施された試掘結果に基づき、調査区内に任意のトレチを設定し、基本土層の確認を行った。その結果、尾根部では表土の直下に地山のⅣ 層を確認した。斜面部では地形変動の痕跡は確認できなかった。平坦部では遺物包含層のⅡ 層と漸移層のⅢ 層を確認した。実際の作業は尾根部・斜面部はⅣ 層上面まで、平坦部はⅡ 層中位まで重機による掘り下げを行った。

遺構の検出は尾根部・斜面部ではⅣ 層上面で行った。平坦部ではⅡ 層掘り下げ後、Ⅲ 層で遺構の検出を行い、再度トレチを設定しⅣ 層で遺構が検出されないことを確認した。

検出した遺構は、原則として 2 分法で行った。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影も隨時行っている。遺構内出土の遺物は隨時写真撮影・図面作成をして取り上げた。遺構外出土の遺物

については小グリッドごとに出土した層位を記して取り上げた。

(4) 実測・写真撮影

平面実測は主に光波測量機器、電子平板を用いて実測および作図した。遺構断面図は遺構の種類を考慮し、土坑類は1/20、焼土は1/10の縮尺を基本とした。断面図で用いたレベルは3級杭のGPS測量の数値を用いた。写真撮影は、デジタルカメラ、6×4.5判モノクロによる撮影を行った。撮影に際しては、当センター所定の撮影カードの記入および写し込みを行い、撮影写真的整理に努めた。実際の撮影は、各種の埋土堆積状況や遺物の出土状況、完掘状況、全景などについて行い、調査終了段階でセスナによる空中写真撮影を行っている。

(5) 調査の経過

平成25年度調査

8月3日 重機によるプレハブ設置箇所および進入路の整地開始

8月8日 重機による整地完了し、プレハブ設置開始

8月19日 資材搬入、調査開始（雑物撤去）

8月28日 重機による表土除去開始

9月2日 基準点測量

10月1日 終了確認

10月14日 航空写真

10月15日 調査終了 現場撤収

平成26年度調査

11月17日 調査開始

11月27日 終了確認

11月28日 調査終了

2 室内整理

(1) 作業経過

作業人数や期間など大まかな流れのみ記載する

平成25年10月16日 整理作業開始 調査員つかず（11月29日まで）

平成26年1月16日 整理作業再開 調査員1名、作業員2名体制

3月31日 作業終了

平成26年12月1日 整理作業開始 調査員つかず（12月19日まで）

12月22日 調査員1名、作業員2名体制で作業

平成27年1月4日 調査員1名、作業員1名体制で作業

1月15日 作業終了

(2) 遺構の整理方法

遺構名は検出順に付与した。発掘調査中は略号（SK・SNなど）を用いたが、本書では「1号土坑」、「1号焼土」と表記した。規模は平面形規模・深さを「m」で表現した。遺構図面は点検後、必要に

応じて第二原図を作成した。図版中の縮尺には個々にスケールを付した。なお、スクリーントーンの種類は使用した図版ごとに付している。

(3) 遺物の整理方法

発掘調査終了後の整理作業は、当センター内にて行った。

遺構の平面図および断面図は電子平板で作成し、EPS形式で保管している。遺構等写真はアルバムにより整理を行った。報告書に掲載する遺構写真は選択後、Adobe InDesignによって割付を作成した。

遺物は、洗浄および注記後各種別に分類した後出土地点ごとに重量計測を行い、接合作業を実施し、必要なものは石膏による復元作業を行い、掲載分と不掲載に細分類し、前者については仮番号を付し登録を行った。登録にあたっては、土器は算用数字、石器はS1…のように種別ごとに異なるアルファベットと番号を付している。その後、報告書掲載遺物が最終的に決定した段階で、新たに算用数字の連番による掲載を付した。登録後、実測と写真撮影を行った。掲載遺物の選択基準は、実測可能な残存状況を原則とし、土器類の破片については特徴から時期や土器型式を特定できるものを中心とした。遺物の実測作業は、原寸での実測を基本とした。実測を行った遺物は済書し図版用の版下を作成した。また、純文土器器面表面は湿拓によって採拓した。遺物の写真撮影はデジタルカメラを用いてを行い、データを編集し写真図版として掲載した。遺物写真はJPEG形式を保管している。全ての処理が終了した遺物は、本書掲載遺物と不掲載遺物に分けて所定の場所へ収納した。

凡　　例

1 遺構実測図の用例は以下の通りである。

- (1) 遺構実測図の縮尺は基本土層断面図 1:40、土坑 1:50、焼土遺構 1:40 で示し、オーバーハングの箇所は点線で、推定線は一点鎖線で示した。
- (2) 層位の表記には、基本層序にローマ数字、各遺構埋土にアラビア数字を使用した。
- (3) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。混入物量（%）の目安もこれを参考にし、図面中の土器は「p」、石器及び礫は「s」の略号で表記した。

2 遺物実測図の用例は以下の通りである。

- (1) 各遺物の縮尺は、土器（立体・破片とも）は 1/3、剥片石器は 1/2、礫石器は 1/3 を基本とした。
- (2) 遺物のスクリーントーン凡例は各図に示した。

3 引用・参考文献は巻末にまとめて記載した。

IV 検出遺構

調査の結果、フラスコ状土坑を含む土坑29基、焼土遺構1基、遺物包含層1箇所を確認した。

1 土 坑

土坑は主に調査区北東側の尾根上で検出した。斜面から斜面下平坦面にかけては1基のみである。土坑の中にはフラスコ状土坑も含むが、遺構番号順に掲載し、フラスコ状土坑は遺構名の隣にフラスコ状土坑と記載している。

1号土坑（フラスコ状土坑）（第6図、写真図版3）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A 6 o・II A 6 pグリッドに位置する。遺構確認は、表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺に16号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $1.9 \times 1.6m$ の東西に長い楕円形、底部は $1.9 \times 1.9m$ の円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は、胴部中央付近で括れを持ち、外反しながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉 16層に区分した。1層は遺物を含む。8・10層は天井崩落土と考えられる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 墓土中から土器が出土しうち4点を掲載した（1～4）。1と3は同一個体である。埋土上位からの出土である。文様の特徴から縄文時代中期中葉大木8 a～b式期のものと考えられる。2は胴部であり、縄文をタテ回転で施文しており、1・3とはほぼ同時期であると考えられる。4は無文で帰属時期は不明であるが、1～3と同時期に属すると考えられる。〈分析鑑定〉 本遺構から出土した炭化物の¹⁴C年代は、 4070 ± 30 yrBP、曆年較正年代（ 1σ ）は、縄文時代中期後葉から末葉頃に相当するとの分析結果を得た。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

2号土坑（フラスコ状土坑）（第6図、写真図版3）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A 9 tグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には5号土坑が位置する。〈形状・規模〉 開口部は $1.9 \times 1.8m$ の南西・北東にやや長い不整円形、底部は $2.3 \times 2.3m$ の不整円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は、胴部上半で括れ、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉 10層に区分した。黒色や黒～にぶい黄褐色土とIV層由来の明黄褐色土が交互に堆積している。4・5層が天井崩落土と考えられる。10層は黒褐色土が薄く堆積しており、有機物の痕跡と考えられる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 堆積土中から縄文土器と石器が出土し、各1点掲載した（5・240）。土器は器面全体に撲糸文が施文されており、縄文時代中期の大木8 b式に属すると考えられる。石器は横長剥片を用いた頁岩製の石匙である。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

3号土坑（フラスコ状土坑）（第6図、写真図版3）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のⅡ A11v・Ⅱ A11w・Ⅱ A12vグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のⅣ層上面で行った。 〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には6号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $1.6 \times 1.5\text{m}$ の東西に長い楕円形、底部は $2.2 \times 2.0\text{m}$ の隅丸三角形を呈する。確認面からの深さは1.7mである。断面形状は胴部上半に括れを持ち、弱く外反をしながら立ち上がるフラスコ状である。 〈堆積土〉 11層に区分した。6層は天井崩落土と考えられる。下部には褐色土が厚く堆積し、上部には黒褐色土が厚く堆積する。斜堆積であるため、自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。 〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が出土し1点掲載した（6）。器面に「木目状撚糸文」を施文しており、文様の特徴から縄文時代前期前葉の大木2a式に属すると考えられる。

〈分析鑑定〉 堆積土下層から出土した炭化物の ^{14}C 年代は $4390 \pm 30\text{yrBP}$ である。曆年較正年代（ 1σ ）は中期中葉頃に相当するとの分析結果を得た。

〈時期〉 年代測定の結果から縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

4号土坑（フラスコ状土坑）（第7図、写真図版3）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のⅡ A12uグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のⅣ層上面で行った。

〈重複関係〉 北側で9号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。 〈形状・規模〉 開口部は $1.6 \times 1.5\text{m}$ の不整円形、底部は $1.7 \times 1.7\text{m}$ の不整円形を呈する。確認面からの深さは1.7mである。開口部と底部の大きさがほぼ同じであり、胴部上半に括れを持ち、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉 14層に区分した。暗褐色土を中心に堆積し、4層は天井崩落土、11層は壁面崩落土と考えられる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。 〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 遺物は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、埋土の様相から縄文時代と考えられる。

5号土坑（フラスコ状土坑）（第7図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のⅡ A9u・Ⅱ A10uグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のⅣ層上面で行った。 〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には2号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $1.4 \times 1.4\text{m}$ の円形、底部は $2.2 \times 2.0\text{m}$ の不整円形を呈する。確認面からの深さは1.3mである。断面形状は、胴部中央付近で括れ、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉 堆積土は6層に区分した。3・4層は天井崩落土である。6層は底部に堆積した有機物である。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。 〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が54.7g出土したが、時期判別が出来ない小破片であるため掲載しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代に属すると考えられる。

6号土坑（フラスコ状土坑）（第7図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のⅡ A11wグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のⅣ層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には3号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $1.7 \times 1.6\text{m}$ の東西に長い楕円形、底部は $2.4 \times 2.2\text{m}$ の東西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は脇部中央付近で括れ、弱く外反をしながら立ち上がるフ拉斯コ状である。

〈堆積土〉 12層に区分した。12層は黒褐色土が薄く堆積しており、有機物の可能性が考えられる。また、黄褐色土と黒色土が交互に堆積している。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。 〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が出土し、1点掲載した(7)。口縁部破片で、隆線による鋸歯状文が確認できることから縄文時代前期の大木4~5式に属すると考えられる。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代前期後葉と考えられる。

7号土坑（フ拉斯コ状土坑）（第8図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉 調査区内北東のII A10 s・II A10 t・II A11 s・II A11 tグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で確認した。 〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には8号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $2.0 \times 1.9\text{m}$ 、底部は $2.7 \times 2.6\text{m}$ のいずれも東西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。底部が大きく広がり、脇部上半付近に括れをもち、やや強めに外反しながら立ち上がるフ拉斯コ状土坑である。

〈堆積土〉 9層に区分した。5・6層は天井崩落土である。堆積土は黒褐色土や暗褐色土を基調とするが、IV層由来の壁面沿いで確認できる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。 〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が出土した。土器は29.4g出土し、1点掲載した(8)。口縁部破片で楕円形状隆線を施す後区画内に連続刺突を施す。文様の特徴から縄文時代前中期の大木6式期であると考えられる。石器は石匙(241)と剥片(246)が出土した。石匙は頁岩製の綫長剥片を加工したものである。剥片は頁岩製の綫長剥片であり、端部に自然面を残している。

〈分析鑑定〉 本遺構から出土した炭化物は ^{14}C 年代では $4960 \pm 30\text{yrBP}$ 、曆年較正年代(1σ)は、前期後葉頃に相当すると分析結果を得た。

〈時期〉 出土遺物と分析鑑定の結果から縄文時代前期後葉から末葉と考えられる。

8号土坑（フ拉斯コ状土坑）（第8図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A11 sグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後、IV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には7号土坑がある。 〈形状・規模〉 開口部は $1.6 \times 1.4\text{m}$ 、底部は $2.3 \times 2.2\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.5mである。断面形状は、脇部中央付近に括れをもち、弱く外反しながら立ち上がる丸みを持つフ拉斯コ状である。

〈堆積土〉 9層に区分した。9層が底面に薄く堆積しており有機物の可能性が考えられる。8層は天井崩落土である。堆積土は全体的に黒褐色土～灰黃褐色土を基調としている。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。 〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が22.6g出土したが、時期判別が困難な小破片であるため掲載しなかった。石器は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物より縄文時代であると考えられる。

9号土坑（フラスコ状土坑）（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A12 u グリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はなく、4号土坑が南側に位置する。

〈形状・規模〉 開口部は $1.4 \times 1.3\text{m}$ の北西-南東に長い楕円形、底部は $2.1 \times 1.8\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは 1.4m である。断面形状は、胴部中央付近で括れを持ち、外反しながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉 6層に区分した。4・5層が天井崩落土である。レンズ状堆積が認められず、IV層の混入が2・3層に認められることから人為堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。〈遺物〉 遺物は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

10号土坑（土坑）（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A12 s・II A12 t グリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉 南側で25号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〈形状・規模〉 開口部は $1.5 \times 1.5\text{m}$ の不整円形、底部は $1.2 \times 1.1\text{m}$ の隅丸三角形を呈する。確認面からの深さは 0.8m である。断面形状は外傾しながら立ち上がる逆台形状を呈する。

〈堆積土〉 5層に区分した。斜堆積が確認できることから自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が 13.1g 出土したが、時期判別が困難な小破片であるため掲載しなかった。石器は出土しなかった。

〈時期〉 重複関係より縄文時代中期中葉より新しい時期に属すると考えられる。

11号土坑（フラスコ状土坑）（第9図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A12 s・II A12 t グリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はないが、遺構の一部を攢乱によって壊されている。

〈形状・規模〉 開口部は $1.8 \times 1.4\text{m}$ 、底部は $2.2\text{m} \times 2.1\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは 1.5m である。断面形状は、胴部中央付近で括れを持ち、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉 12層に区分した。4～6層は天井崩落土・壁面崩落土である。また黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積する。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 堆積土中から縄文土器が 160.8g 出土したが、時期判別が困難な小破片であるため掲載しなかった。石器は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代であると考えられる。

12号土坑（土坑）（第9図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A12 r グリッドに位置する。遺構確認は表土除去後、IV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はなく、周辺には10号土坑が位置する。〈形状・規模〉 開口部は $1.0 \times$

0.9m、底部は $0.8 \times 0.7\text{m}$ の東西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは0.5mである。断面形状は円筒形ではほぼ垂直に立ち上がる。〈堆積土〉4層に区分した。埋土中に直径約30cmの礫の混入を確認した。礫には使用した痕跡は確認できなかった。3層が堆積した際に混入したと考えられる。礫には使用した痕跡はなかった。斜堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が394.5g出土し、1点を掲載した(9)。胴部破片で全面に縄文が施文されており、時期は不明である。石器は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代であると考えられる。

13号土坑（フラスコ状土坑）（第9図、写真図版6）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A11 s・II A11 t・II A12 s・II A12 tグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はないが、周辺に10号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $2.3 \times 1.8\text{m}$ 、底部は $2.8 \times 2.4\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.7mである。断面形状は、胴部中央付近で括れ、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉7層に区分した。黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積している。5・6層は天井崩落土である。レンズ状堆積であることから、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が223.3g出土し、2点を掲載した(10・11)。11は胴部破片で縄文施文後、鋸歯状沈線を施文する特徴から縄文時代中期末～中期初頭の大木6～7a式期のものと考えられる。10は口縁部破片で横位楕円形隆線貼付後、原体側圧を施文していることから縄文時代中期の大木7b式であると考えられる。石器は敲磨石類が1点出土しているが、掲載しなかった。

〈時期〉出土遺物から縄文時代前期末葉から中期前葉であると考えられる。

14号土坑（土坑）（第9図、写真図版6）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A13 rグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には12号土坑が位置する。〈形状・規模〉開口部は $1.0 \times 0.8\text{m}$ 、底部は $0.7 \times 0.7\text{m}$ の南西～北東に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは0.4mである。断面形状は外傾しながら立ち上がる逆台形状を呈する。〈堆積土〉4層に区分した。斜堆積であるため自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

15号土坑（土坑）（第9図、写真図版6）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A13 rグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には14号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $1.3 \times 1.2\text{m}$ の不整円形、底部は $1.0 \times 1.1\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは0.5mである。断面形状は外傾しながら立ち上がる逆台形状を呈する。

〈堆積土〉4層に区分した。4層は水平堆積であるが、2・3層が斜堆積であるため、自然堆積と考

えられる。〈付属施設〉伴わない。〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

16号土坑（フラスコ状土坑）（第10図、写真図版6）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A 9 n・II A 9 o・II A10n・II A10oグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後、IV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には1号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $2.0 \times 1.7\text{m}$ の南東-北西に長い楕円形、底部は $2.4 \times 2.2\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.7mである。断面形状は、胴部上半付近で括れを持ち、外反しながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉10層に区分した。7・8層は天井崩落土、10層は壁面崩落土である。7・8層は底面に近い位置に堆積しており、土坑廃絶後の早い段階で崩落したと考えられる。堆積土は黒褐～暗褐色土を基調とし、いずれの層にもIV層由来土が含まれている。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

17号土坑（フラスコ状土坑）（第10図、写真図版7）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A13 tグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には11号土坑が位置する。〈形状・規模〉開口部は $1.3 \times 1.0\text{m}$ の、底部は $1.5 \times 1.3\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.2mである。断面形状は開口部と底径がほぼ同じで、弓状に括れながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉9層に区分した。各層にIV層由来土が混入している。5・6層は天井崩落土である。9層は有機物であると考えられる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

18号土坑（フラスコ状土坑）（第10図、写真図版7）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A10 r・II A10 sグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には7号・8号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $1.5 \times 1.3\text{m}$ 、底部は $2.6 \times 2.3\text{m}$ の南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は胴部上半付近で括れ、外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉16層に区分した。6・8・11層は天井崩落土であり、11層が1度目の崩落、6・8層が2度目の崩落と考えられる。堆積土は灰黄褐色土と黒褐色土が交互に堆積している。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。〈遺物〉堆積土中から縄文土器が32.4g出土したが、時期判断が困難な小破片のため掲載しなかった。石器は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代であると考えられる。

19号土坑（土坑）（第10図、写真図版7）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A13 r・II A14rグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV

層上面で行った。〈重複関係〉重複遺構はなく、周辺に14号・15号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $1.1 \times 1.0\text{m}$ 、底部 $0.9 \times 0.8\text{m}$ の東西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは 0.6m である。断面形状は外傾しながら立ち上がる逆台形状を呈する。〈堆積土〉4層に区分した。1～3層にはIV層由来土を含んでいる。自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

20号土坑（フラスコ状土坑）（第11図、写真図版7）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A14 p・II A15 pグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には21号土坑と1号焼土が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $1.1 \times 1.1\text{m}$ 、底部は $1.7 \times 1.7\text{m}$ のいずれも円形を呈する。確認面からの深さは 1.2m である。断面形状は、胴部上半付近に括れ、弱く外反するフラスコ状である。

〈堆積土〉8層に区分した。8層がIV層由来土の天井崩落土であると考えられる。また底面の近くに堆積していることから土坑の廃絶後すぐに崩落したものと考えられる。レンズ状堆積であるため、自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴ない。〈遺物〉堆積土中から縄文土器が 1586.3 g 出土し、うち3点を掲載した（12～14）。12は文様の特徴から縄文時代中期の大木7a～b式期と考えられ、13は胴部破片でS字状鍛錬沈文の特徴から縄文時代前期の大木3式期と考えられる。14は底部破片であるが文様は施文されておらず、時期は不明である。

〈分析鑑定〉本遺構内から出土した炭化物の ^{14}C 年代は $4380 \pm 30\text{ yrBP}$ である。曆年較正年代（ 1σ ）は、中期中葉頃に相当するとの分析結果を得た。

〈時期〉出土遺物と分析鑑定から縄文時代中期中葉に属すると考えられる。

21号土坑（土坑）（第11図、写真図版8）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A14 p 7グリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面を行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には20号土坑と1号焼土が位置する。

〈形状・規模〉開口部は $1.1 \times 0.8\text{m}$ 、底部は $0.7 \times 0.6\text{m}$ のいずれも南東・北西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは 0.8m である。断面形状は円筒形で部分的に凹凸を作りながら、ほぼ垂直に立ち上がる。

〈堆積土〉6層に区分した。1～5層はにぶい黄褐色土と褐色土が交互に堆積する。6層は暗褐色土が堆積している。自然堆積と考えられる。〈付属施設〉伴ない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が 609.2 g 出土し、うち1点を掲載した（15）。底部破片で縄文が施文されており、詳細な時期は判別できなかった。石器類は出土しなかった。

〈時期〉出土遺物から詳細な所属時期は不明であるが、縄文時代であると考えられる。

22号土坑（フラスコ状土坑）（第11図、写真図版8）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A12 nグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面を行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には23号土坑が位置する。〈形状・規模〉開口部は $1.6 \times 1.4\text{m}$ 、底部 $2.0 \times 1.8\text{m}$ のいずれも南東・北西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは 1.3m である。

断面形状は、胴部中央付近で括れ、弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉11層に区分した。11層はフラスコの底面に堆積した有機物であり、1～4層は本遺構が埋没後に掘られたものと考えられる。5～10層はほぼ水平に堆積しているため、人為堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が885g出土し、1点掲載した(16)。口縁部は無文帯で把手を4つ持ち、胴部には4単位の渦巻状隆線が施文される壺である。文様の特徴から中期大木8a～b式と考えられる。石器は頁岩製の縦長剥片が1点出土している(245)。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期中葉であると考えられる。

23号土坑（フラスコ状土坑）（第11図、写真図版8）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A11m・II A12mグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には22号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部は1.5×1.4m、底部は2.1×2.0mの北東・南西に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は底部が大きく、胴部中央付近で括れを持ち、緩やかに外反しながら立ち上がるフラスコ状土坑である。〈堆積土〉5層に区分した。いずれの層にも壁面や天井崩落土の痕跡は認められないため、天井崩落はなかったと考えられる。5層はフラスコの底部に堆積した有機物である。水平堆積が認められるため、人為堆積と考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が13.3g出土し、1点掲載した(17)。縄文を施文し沈線により文様を描く特徴から縄文時代中期の大木8a～b式であると考えられる。

〈時期〉出土遺物より縄文時代中期中葉であると考えられる。

24号土坑（土坑）（第11図、写真図版8）

〈位置・検出状況〉調査区中央東側のII A17kグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺にも遺構はなかった。

〈形状・規模〉開口部は0.9×0.8m、底部は0.6×0.6mのいすれも南北に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは0.3mである。断面形状は外傾しながら立ち上がる逆台形状を呈する。〈堆積土〉上下2層に区分した。2層は底面に薄く堆積する。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から縄文土器が13.7g出土したが、時期判別が困難な小破片のため掲載しなかった。石器類も出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、出土遺物から縄文時代であると考えられる。

25号土坑（フラスコ状土坑）（第12図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A12s・II A13sグリッドに位置する。遺構確認は10号土坑の精査終了後のIV層上面で行った。〈重複関係〉北側で10号土坑と重複し、本遺構が古い。

〈形状・規模〉開口部が1.5×1.3mの東西に長い楕円形、底部は2.6×2.2mの南北に長い不整楕円形を呈する。確認面からの深さは1.6mである。断面形状は、胴部上半で括れ、緩く外反して立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉5層に区分した。5層はフラスコの底部に堆積した有機物である。堆積土中に壁面崩落土や天井崩落土は確認できなかった。水平堆積であるため、人為堆積と考えられる。

〈付属施設〉伴わない。〈遺物〉堆積土中から縄文土器が710g出土し、うち2点を掲載した

(18・19)。18は口縁部に隆沈線で渦巻文を描く特徴などから縄文時代中期中葉の大木8 b式と考えられる。19は地文を施し、隆線を張り付ける特徴から大木8 a式と考えられる。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期中葉であると考えられる。

26号土坑（フラスコ状土坑）（第12図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A13 sグリッドに位置する。遺構確認表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には10号・25号土坑が位置する。〈形状・規模〉開口部が 0.93×0.96 mの不整円形、底部は 2.1×1.8 mの南北にやや長い不整楕円形を呈する。確認面からの深さは1.341mである。断面形状は最大径が胴部下部にあり頭部で括れ、わずかに外反して立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉6層に区分した。6層はフラスコの底部に堆積した有機物である。1～3層に炭化物粒の混入が認められる。堆積状況から人為堆積と考えられる。

〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉遺物は出土しなかった。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

27号土坑（フラスコ状土坑）（第12図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A15 rグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉重複する遺構はないが、南半分が調査区外に位置している。〈形状・規模〉確認できた範囲で開口部が $1.2 \times (0.46)$ mの円形、底部は $2.33 \times (0.73)$ mの不整円形であると考えられる。確認面からの深さは1.328mである。断面形状は、最大径が胴下部にあり、胴部中央でくびれ、弱く外反し立ち上がるフラスコ状である。〈堆積土〉12層に区分した。7・10層は壁面崩落土か天井崩落土である。また2・10層では炭化物粒の混入が認められ、全体に黄褐色土の混入が認められ、人為堆積であると考えられる。

〈付属施設〉伴わない。〈遺物〉堆積土中から21が出土した。胴～底部破片で縄文時代中期の大木7 b～8 a式期と考えられる。

〈時期〉詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

28号土坑（フラスコ状土坑）（第13図、写真図版10）

〈位置・検出状況〉調査区北東のII A14 r・II A14 sグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。〈重複関係〉重複する遺構はなく、周辺には27号土坑が位置する。

〈形状・規模〉開口部が 1.485×1.475 mの東西にやや長い楕円形、底部は 2.09×1.85 mの東西にやや長い不整楕円形を呈する。確認面からの深さは1.544mである。断面形状は最大径が胴部下部に持ち、東側は胴部上位でくびれ外反し、西側は胴部中位でくびれ弱く外反しながら立ち上がるフラスコ状である。

〈堆積土〉10層に区分した。隣接する木根が堆積土に入り込んでいる。1層から土器は3点見つかった。6・7・9層は壁面崩落土もしくは天井崩落土である1～5層までは炭化物粒を含んでいる。堆積状況から人為堆積であると考えられる。〈付属施設〉伴わない。

〈遺物〉堆積土中から土器が出土し、3点を掲載した（20・22・23）。20は埋土上位で斜めに倒立し

た状態で出土した。4単位の突起をもち、口縁部・頸部・胴部と3つの文様帯を持つ深鉢である。文様の特徴から縄文時代中期大木8b式期と考えられる。22は20と比較すると細身の深鉢で4単位の突起を持ち、口縁部は地文施文後沈線で文様を描き、胴部は地文を施文するのみである。文様帯や地文の特徴から縄文時代中期の大木8a式であると考えられる。23は小型の深鉢で渦巻の突起を持ち、頸部が無文帯である。口縁部には隆線と刺突が確認できる。胴部は地文をヨコ方向に施文している。文様の特徴から縄文時代中期中葉大木7b式であると考えられる。

石器は敲磨石類が出土し、4点掲載した（257・258・260・264）。257・258は断面三角形状の敲磨石である。閃綠岩製でいずれも2面使用している。260はアブライト製の円形状磨石である。断面がやや三角形状になるように使用している。264はホルンフェルス製の断面四角形の磨石である。磨面のほかに擦痕も確認できる。形状から台石・石皿の可能性も考えられるが、今回は敲石類として報告した。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉であると考えられる。

29号土坑（土坑）（第13図、写真図版10）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A13sグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構はないが、遺構の南東部が調査区外に位置している。

〈形状・規模〉 遺構の南東部が調査区外に位置しているため、確認できる範囲で長軸0.87m、短軸0.516mで、円形から梢円形形状を呈すると考えられる。確認面からの深さは0.34mである。断面形状はほぼ垂直であるが、上部わずかに外反する。 〈堆積土〉 4層に区分した。3層に炭化物の混入が確認できた。人為堆積と考えられる。 〈付属施設〉 伴わない。

〈遺物〉 遺物は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

2 焼土遺構

1号焼土（第13図、写真図版10）

〈位置・検出状況〉 調査区北東のII A14p・II A14qグリッドに位置する。遺構確認は表土除去後のIV層上面で行った。

〈重複関係〉 重複する遺構なく、周辺には20・21号土坑が位置する。

〈形状・規模〉 長径0.6m×短径0.4mの東西に長い不整梢円形を呈する。

〈堆積土〉 2層に区分した。2層は焼土で、1層はその上に堆積する灰黄褐色土である。

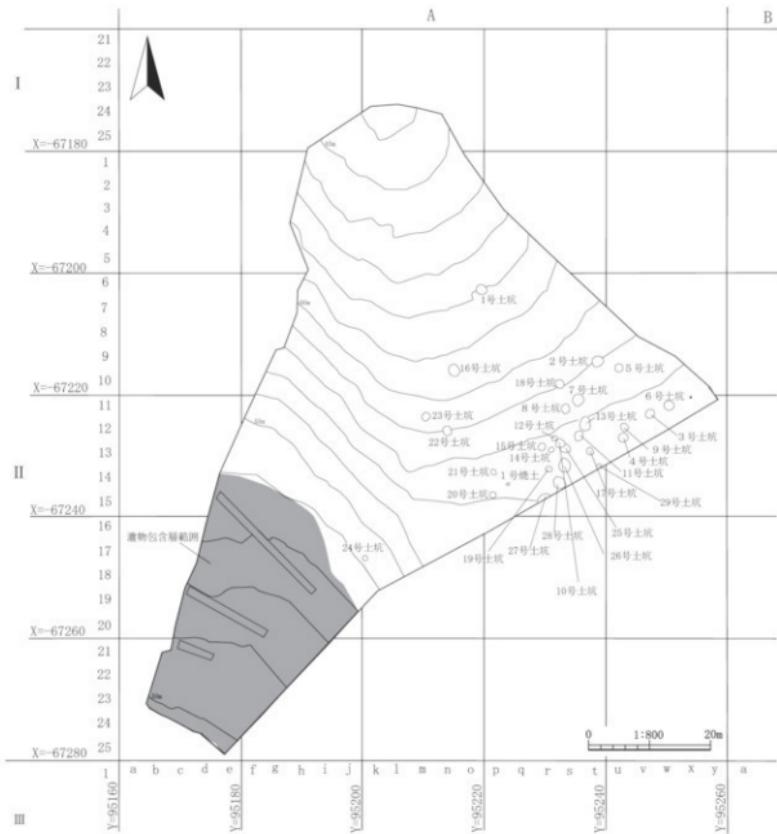
〈遺物〉 遺物は出土しなかった。

〈時期〉 詳細な所属時期は不明であるが、遺跡の時期から縄文時代であると考えられる。

3 遺物包含層

調査区の下部平坦面に遺物の出土量が多い範囲が認められた。遺物は基本土層のⅡ層中に混入していることが明らかになり、面積は約610m²で遺物包含層として調査を行った、範囲は第5図の通りである。

第3表に遺物包含層から出土した土器と石器の遺物の重量をまとめた。石器は剥片石器と礫石器の重量を合計したものである。調査区外への包含層の広がりは、北側ではⅡ層黒色土が認められず、南側は沢があるため南北には延長しないと考えられる。西側は旧町道を挟んで東側に包含層とほぼ同標高の地点があり、包含層が延びる可能性も考えられる。東側は調査区境界の断面より遺物が露出しており、遺物の重量分布からもさらに調査区外へ延びると考えられる。



第5図 遺構配置図

包含層から出土した土器の時期は縄文時代前期から中期である。縄文時代前期前葉から末葉の時期に属し、分布は20d周辺と南北に伸びるhラインにやや多い傾向を見せる。一方中期は包含層全体から出土し、17~21ラインに多く分布する。特に20dや21dから多く出土する。時期は縄文時代中期初頭から中期後葉である。このように時期ごとの遺物量に差があるが主体となるのは縄文時代中期前葉から中葉であると考えられる。

石器の分布をみると遺物が多いのは18gグリッド周辺であることが分かる。石器は剥片石器よりも礫石器が多く、その中でも敲磨石類が一番多く出土している。土器の分布と同様に東側の遺物量が多いことが分かる。

包含層は単層であり、グリッドごとに一括で取上げをしているため遺物包含層出土遺物の掲載にあたって、時期ごとではなく北西グリッドから順に掲載することとした。

第2表 遺構観察表

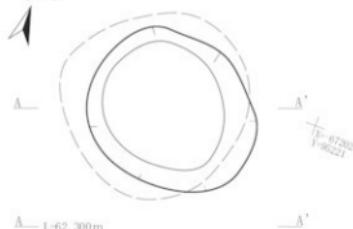
遺構名	グリッド	開口部径(m)	底部径(m)	深さ(m)	遺構名	グリッド	開口部径(m)	底部径(m)	深さ(m)
1号土坑	II A6o・II A6p	18×16	19×19	1.6	16号土坑	II A9n・II A9o・II A10n・II A10o	20×17	24×22	1.7
2号土坑	II A9t	19×18	23×23	1.6	17号土坑	II A13t	13×10	15×13	1.2
3号土坑	II A11v・II A11w・II A12v	16×15	22×20	1.7	18号土坑	II A13r・II A14r	11×10	09×08	0.6
4号土坑	II A12u	16×15	17×17	1.7	19号土坑	II A10r・II A10s	15×13	26×23	1.6
5号土坑	II A9u・II A10u	14×14	22×20	1.3	20号土坑	II A14p・II A15p	11×1.1	17×1.7	1.2
6号土坑	II A11w	17×16	24×20	1.6	21号土坑	II A14p	11×0.8	07×0.6	0.8
7号土坑	II A10s・II A10t・II A11s・II A11t	20×19	27×26	1.6	22号土坑	II A12n	16×1.4	20×18	1.3
8号土坑	II A11s	16×14	23×22	1.5	23号土坑	II A11m・II A12m	15×1.4	21×20	1.6
9号土坑	II A12u	14×13	21×18	1.4	24号土坑	II A17k	09×0.8	06×0.6	0.3
10号土坑	II A12s・II A12t	18×14	22×21	1.5	25号土坑	II A12s・II A13s	15×13	26×22	1.6
11号土坑	II A12s・II A12t・II A13s・II A13t	15×15	12×11	0.8	26号土坑	II A13s・II A14s	096×0.93	21×18	1.34
12号土坑	II A12r	10×0.9	08×0.7	0.5	27号土坑	II A15r	12×(0.46)	233×(0.73)	1.28
13号土坑	II A11s・II A11t・II A12s・II A12t	23×18	28×24	1.7	28号土坑	II A14r・II A14s	1485×1473	209×185	1.544
14号土坑	II A13r	10×0.8	07×0.7	0.4	29号土坑	II A13t	0.87×0.51	-	0.34
15号土坑	II A13r	13×12	10×1.0	0.5	1号出土遺構	II A14p・II A14q	0.6×0.4	-	0.1

○ : 掘存値

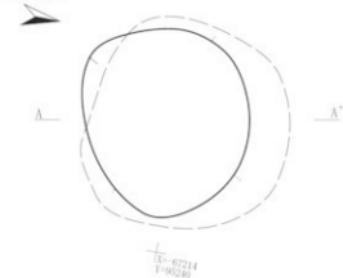
第3表 遺物包含層重量表（土器・石器）

	小グリッド	14e	14f	14g	14h	14i
	土器重量				75.4	
	石器重量					
車上段:土器重量		15e	15f	15g	15h	15i
下段:石器重量			279.0	2129.8	25.4	
		16e	16f	16g	16h	16i
		54.5	766.8	455.6	253.9	
	17d	17e	17f	17g	17h	17i
	180.7		560	650.5	1736.6	3570.2
	60.1			1818.8	143.1	378.1
	18d	18e	18f	18g	18h	18i
	12.6	74.1	1053.6	986.9	5741.2	5326.1
	1066.5			8325.1	2643.7	
	19c	19d	19e	19f	19g	19h
	570.9	497.5	497.5	1857.1	522.7	
			588.1	5725.7		
	20c	20d	20e	20f	20g	20h
	246.3	2884.9	2125.9	2225	782.8	16436.7
			1307.3	430.5		3280.3
	21c	21d	21e	21f	21g	21h
	2135.1	5504.9	1823.1	1074.9	494.9	5272
	12.5	1241.1		738.4		3225.5
					168	604.5
	22b	22c	22d	22e	22f	22g
	64.5	5.1	613	44.6	53.2	159.4
			614.5	145.8		2307.3
	23b	23c	23d	23e	23f	23g
	20.5	189.4		666	2398.6	20376.5
	11.8				273.4	272.6
	24b	24c	24d	24e	24f	
	16	608.3			592.1	
						単位: g

1号土坑



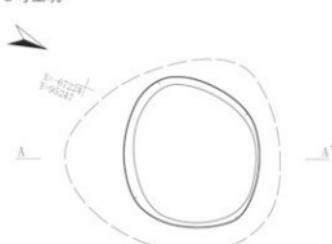
2号土坑



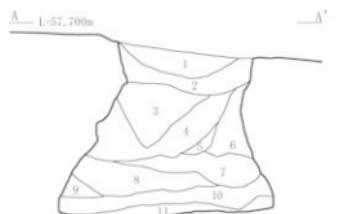
1号土坑

- 1 10TR3/1 黒褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック30%含む
- 2 10TR3/3 黒褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 3 10TR3/2 黒褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒5%含む
- 4 10TR4/6 棕褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 IV層土粒5%含む
- 5 10TR3/1 黑褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒5%含む
- 6 10TR3/2 棕褐色 粘質シルト しまり中 粘性強 IV層ブロック10%含む
- 7 10TR3/2 棕褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 IV層ブロック2%含む
- 8 10TR5/6 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 渗入なし
- 9 10TR4/3 にじみ 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 10 10TR5/6 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 渗入なし
- 11 10TR4/3 にじみ 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 12 10TR4/2 淡黄褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中
- 13 10TR5/6 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 14 10TR4/3 にじみ 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 15 10TR4/2 淡黄褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中
- 16 10TR5/2 淡黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む

3号土坑



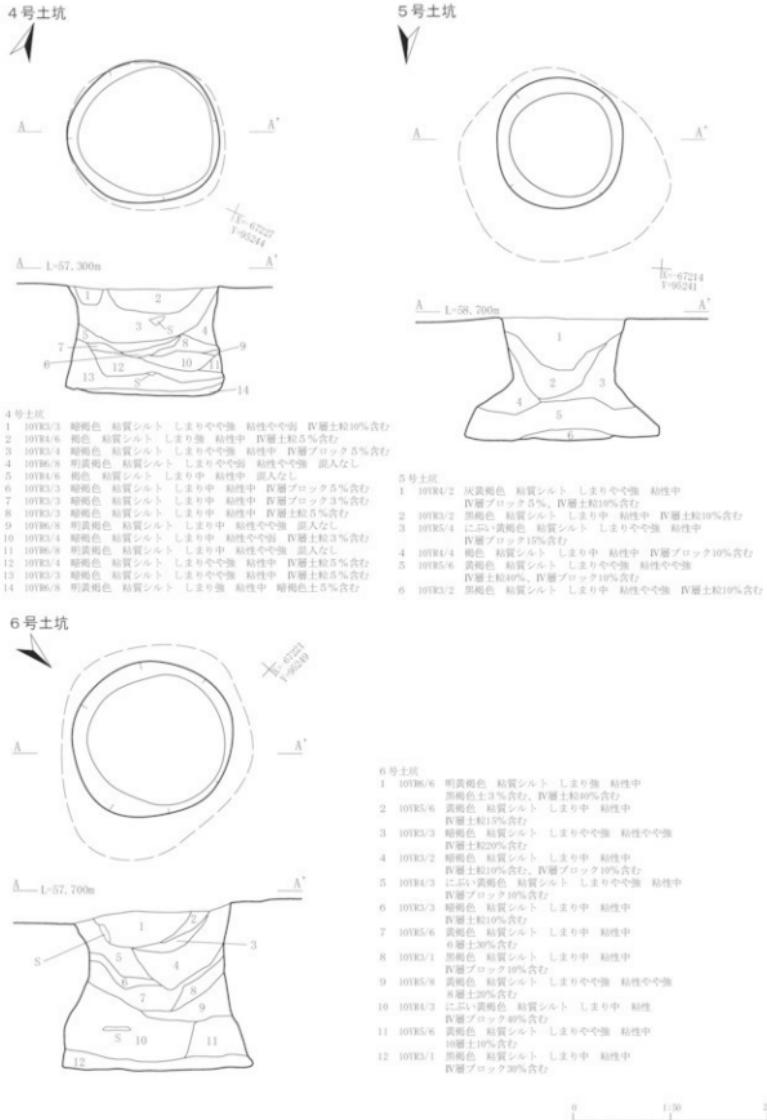
A—L=57.700m



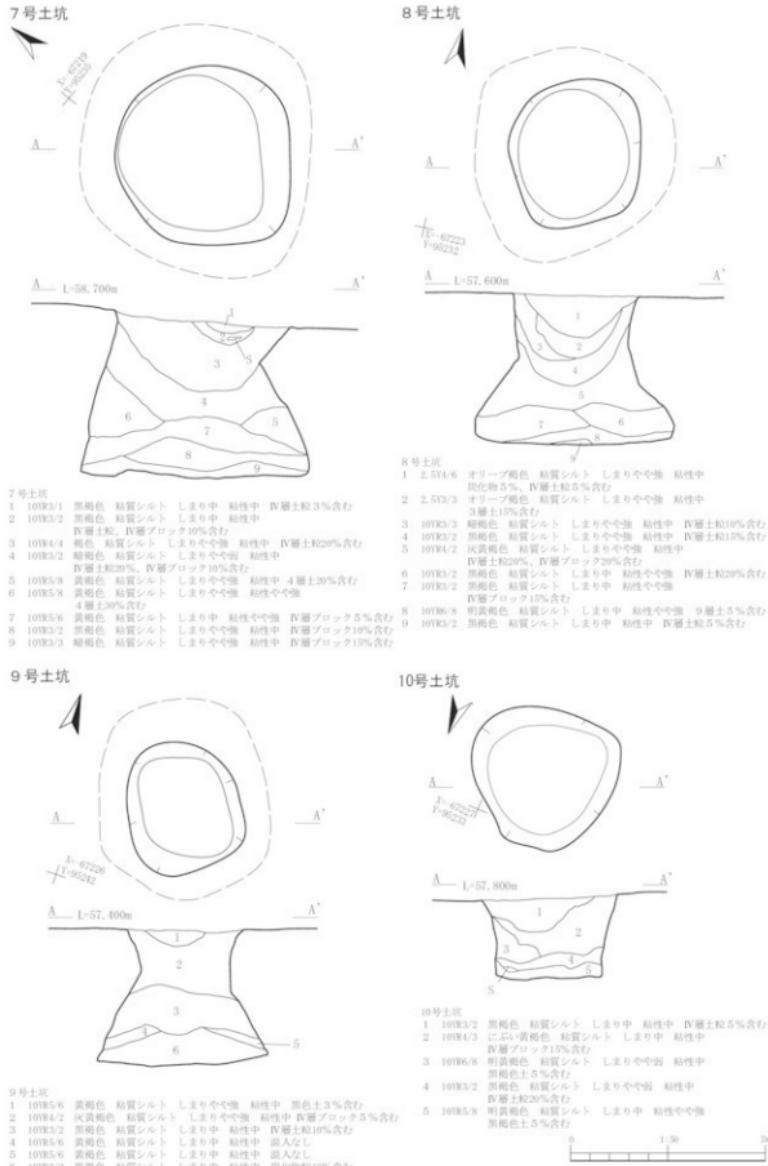
3号土坑

- 1 10TR2/2 黒褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒10%含む, 塩化物1%含む
- 2 10TR3/2 黒褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 3 10TR4/2 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 4 10TR4/2 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック10%含む
- 5 10TR4/3 にじみ 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒5%含む
- 6 10TR5/8 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 渗入なし
- 7 10TR4/2 淡黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 8 10TR4/3 にじみ 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒20%含む
- 9 10TR3/2 黑褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強 渗入なし
- 10 10TR4/6 棕褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強 黑褐色土5%含む
- 11 10TR4/6 棕褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強 黑褐色土5%含む

第6図 1～3号土坑

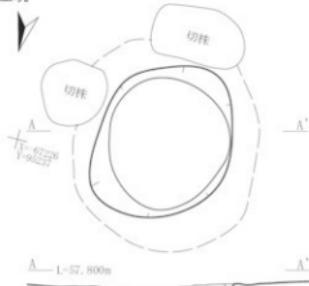


第7図 4～6号土坑



第8図 7~10号土坑

11号土坑



11号土坑

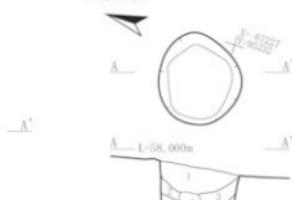
- 1 10RK4/2 淡黄色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒15%含む
- 2 10RK3/1 黑褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒20%含む
- 3 10RK3/1 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック20%含む
- 4 10RK5/8 黄褐色 黏質シルト しまり中 粘性やや強 地下水有り
- 5 10RK3/6 黄褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒5%含む
- 6 10RK3/6 黄褐色 黏質シルト しまりやや弱 粘性中 3層1.3%含む
- 7 10RK3/1 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 8 10RK3/2 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック15%含む
- 9 10RK3/2 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック10%含む
- 10 10RK3/1 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 11 10RK5/8 黄褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒5%含む
- 12 10RK3/2 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒15%含む

13号土坑



A—L-59, 700m

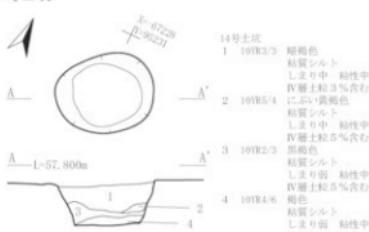
12号土坑



12号土坑

- 1 10RK4/2 淡黃褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒20%含む
- 2 10RK3/1 黒褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 3 10RK2/2 黑褐色 黏質シルト しまりやや弱 粘性中 IV層ブロック10%含む
- 4 10RK5/6 黄褐色 黏質シルト しまりやや弱 粘性中 順入なし

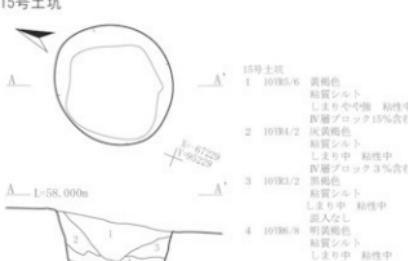
14号土坑



14号土坑

- 1 10RK3/3 淡褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒3%含む
- 2 10RK5/4 黑褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性中 IV層土粒5%含む
- 3 10RK2/3 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒5%含む
- 4 10RK4/6 黄褐色 黏質シルト しまり弱 粘性中 黑褐色土10%含む

15号土坑



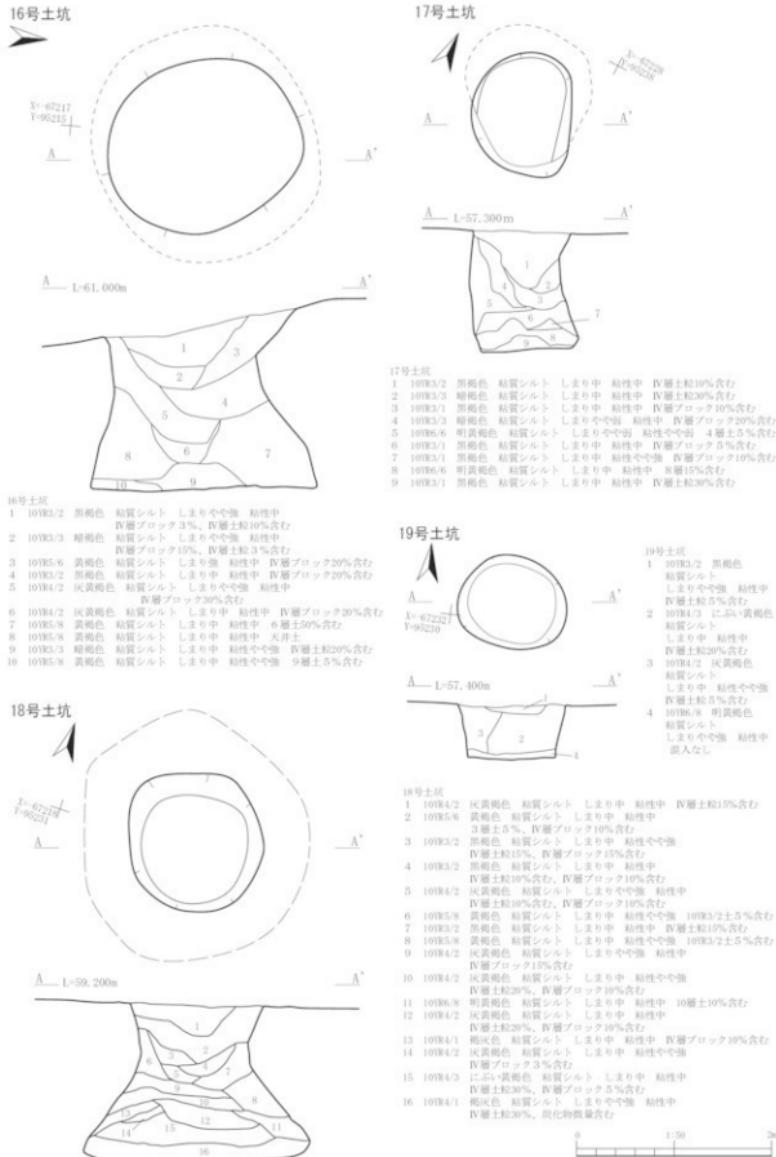
13号土坑



- 1 10RK5/2 黑褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性中 IV層ブロック15%含む
- 2 10RK2/1 黑褐色 黏質シルト しまりやや強 粘性やや強 地下水3%含む
- 3 10RK2/2 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック20%含む
- 4 10RK3/1 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒15%含む
- 5 10RK5/6 黄褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 4層土20%含む
- 6 10RK5/6 黄褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 4層土10%含む
- 7 10RK3/4 黑褐色 黏質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒15%含む

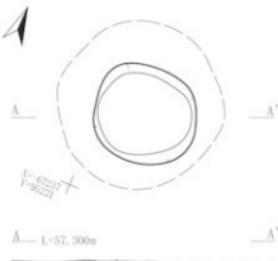


第9図 11～15号土坑



第10図 16~19号土坑

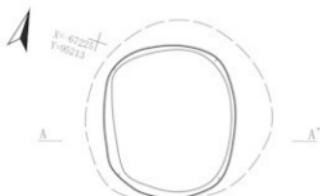
20号土坑



20号土坑

- 1 10YR2/2 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 硅質土粒15%含む
- 2 10YR3/2 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒2%含む
- 3 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 IV層土粒2%含む
- 4 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック15%含む
- 5 10YR4/4 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 6 10YR3/2 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 IV層土粒5%含む
- 7 10YR4/4 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒5%含む
- 8 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性やや強 7層土粒0%含む

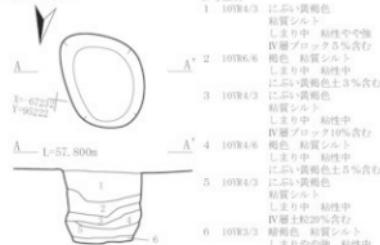
22号土坑



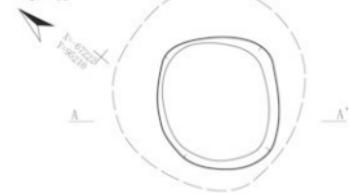
22号土坑

- 1 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒5%含む
- 2 10YR3/2 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック15%含む
- 3 10YR3/4 暗褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性やや弱 黑褐色土粒5%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック20%含む
- 5 10YR5/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 浸入なし
- 6 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒15%含む
- 7 10YR5/8 黄褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 6層土粒3%含む
- 8 10YR6/8 明黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 6層土粒3%含む
- 9 10YR6/8 明黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 6層土粒5%含む
- 10 10YR4/4 暗褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック20%含む
- 11 10YR3/3 暗褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性中 IV層ブロック10%含む

21号土坑



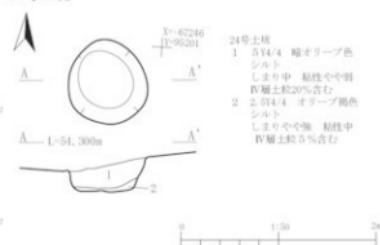
23号土坑



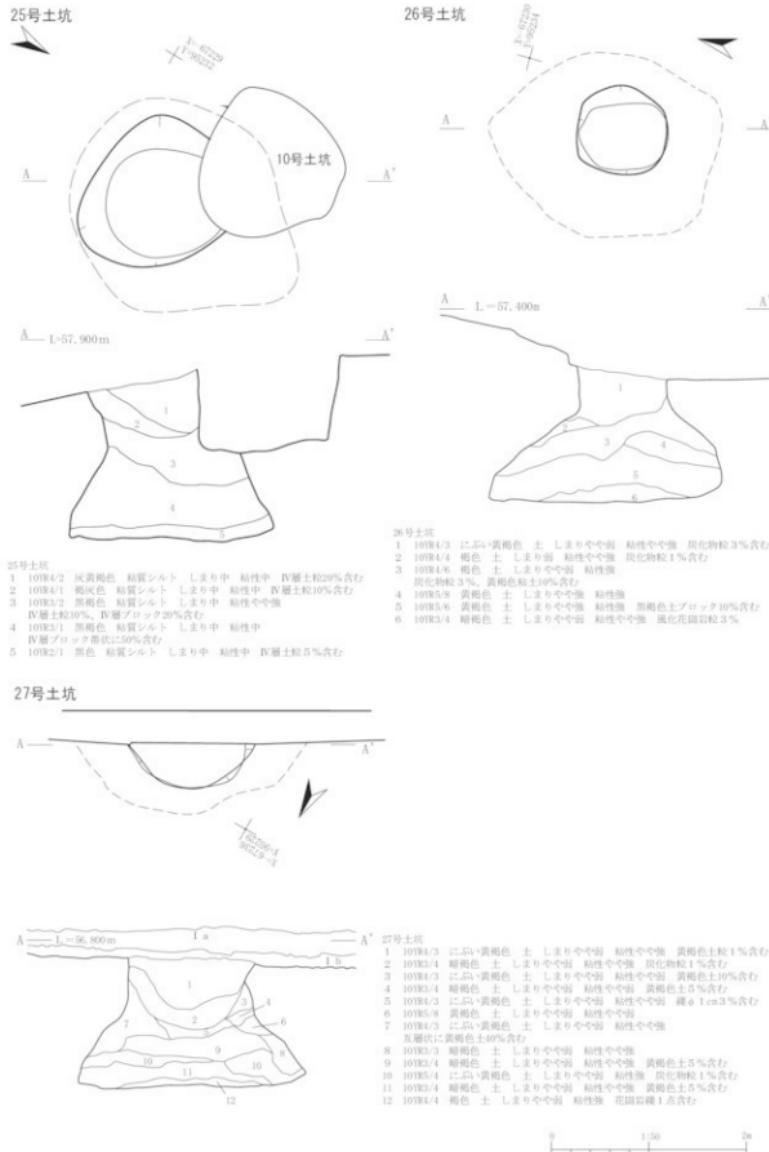
23号土坑

- 1 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強
- 2 10YR4/2 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 3 10YR3/2 黄褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層ブロック5%含む
- 4 10YR3/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒10%含む
- 5 10YR2/1 黑褐色 粘質シルト しまり中 粘性中 IV層土粒3%含む

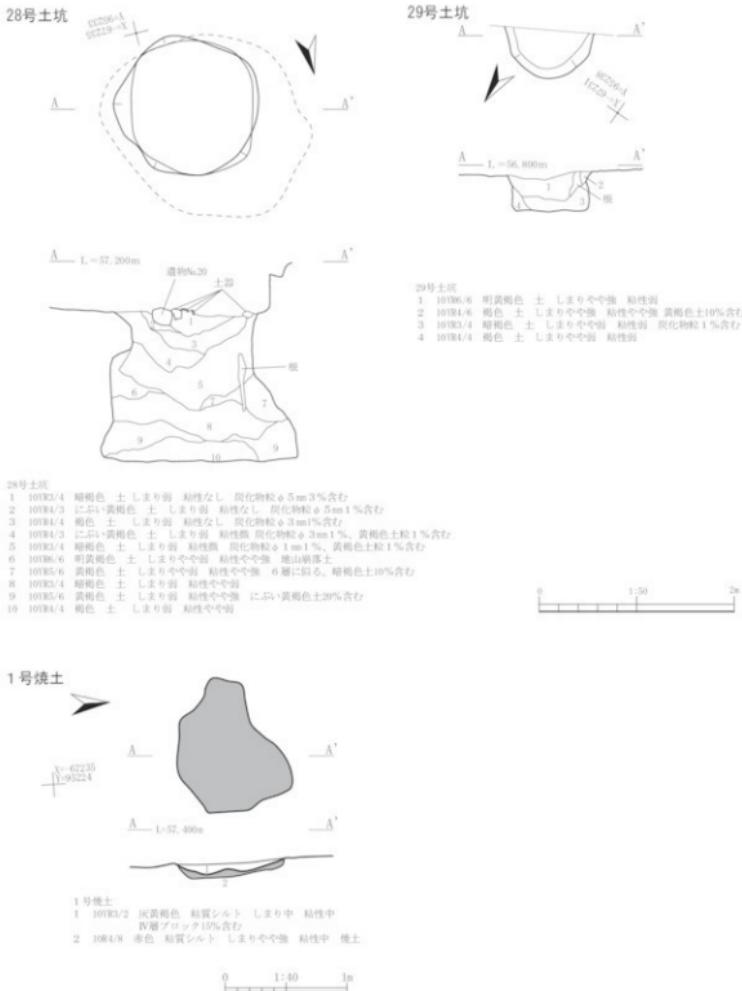
24号土坑



第11図 20~24号土坑



第12図 25~27号土坑



第13図 28・29号土坑、1号焼土

V 出 土 遺 物

1 繩 文 土 器

平成25年度、26年度の調査で出土した土器は第14～26図、第4表で示している。掲載にあたり土器は原則的に1:3の縮尺で掲載した。ただし、大型の土器は図版の関係上その限りではない。

土坑出土の土器は遺構ごとに掲載し、遺物包含層出土の土器はグリッド順に掲載した。遺物包含層出土遺物は全体を復元できる個体が少なかったため、破片の文様要素、施文具、施文順位など土器型式を可能な限り比定し、観察表に記載した。観察表でのトレンチの位置は第4図に示してある。

各時期における土器の特徴を以下に述べる。遺構内出土の土器は第IV章で触れた通りである。

縄文時代前期前葉に属する土器

大木2～3式に属すると考えられる土器である。19点掲載した。特徴として繊維の混入が挙げられ、また網目状撚糸文や、結節回転文や木目状の撚糸文を器面に施し、山形文など沈線で施文する土器を対象とした。

主に遺物包含層からの出土で、完形ではなくすべて深鉢の破片である。6・13は遺構内出土でそのほかは遺物包含層出土である。また器面に組紐を施文する土器片も1点掲載した。胎土に繊維の混入が確認できることから前期前葉に属すると考えられる。

縄文時代前期中葉～後葉に属する土器

大木4～5式に属すると考えられる土器である。隆線による山形文や鋸歯状文を持つ土器を対象とした。6点掲載し、2点は遺構内出土である。遺物包含層からも出土している。隆線の幅や描く文様から主に大木5式に相当すると考えられる。

縄文時代前期末葉に属する土器

大木6式に属すると考えられる土器である。太く短い沈線や沈線による円文や山形文が口縁部に施文され、胴部には半截竹管などによる施文、胴部は単節斜行繩文に半截竹管での格子状文様があるものを対象とした。完形はほとんどなく、破片が中心である。

遺物包含層より「オオバコ回転文」と称される擬繩文の土器が出土している(103・I A20dより出土)。胴部破片でオオバコの花茎部分を押圧・回転し、施文したものである。県内では盛岡市上八木田Ⅰ遺跡・北上市鳩岡崎上の台遺跡・横町遺跡・湯田町岬山牧場Ⅰ遺跡B地区・和田町清水ヶ野遺跡において縄文時代前期後葉から末葉の土器(大木5～6式)に共伴して出土している。今回の調査では同一のグリッドから前期末葉の土器が共伴しているため、前期末葉として報告した。

縄文時代中期前葉に属する土器

大木7a～b式に属すると考えられる土器である。口縁部文様帯を持ち、胴部には結節回転文や地文の繩文を施文し、隆線や沈線で文様を描いている土器を対象とした。完形の資料は少ないが、比較的大型で文様要素が確認できる破片が多い。

対象とした土器の中には、縄文原体の側面圧痕を文様要素として用いている土器片が確認できる。こ

これらは大木7 b式として位置づけられるが、側面圧痕単体で文様を描く一群と隆線に沿う側面圧痕の一群が確認できる。今回は原体側圧という技法を用いている破片を中期前葉に含めたが、原体側圧単体で文様を描く一群は中期中葉に属する可能性も考えられる。

縄文時代中期中葉に属する土器

大木8 a～b式に属すると考えられる土器である。口縁部文様帯、胴部文様体を持ち、胴部文様帯には単節縄文が主体で隆線や沈線により渦巻文などを施文する破片や、頸部無文帯を持つもの土器を対象とした。完形資料も少数あるが、破片資料も含まれる。

28号土坑から出土した土器（20）は、口縁部の突起の一部が欠損しているがほぼ完形の深鉢である。胴部の上部に最大径を持ち、頸部で一度くびれ、口縁部はやや外傾する器形である。口縁部文様帯・頸部文様帯・胴部文様帯の3つの文様帯を持つ。頸部文様帯は無文である。口縁部文様帯と胴部文様帯は地文に撲糸文をタテ方向に施文しており、これは大木8 b式の特徴の一つである。その後隆線や沈線などで文様を描く。胴部文様帯は隆沈線を用いて文様を描いているが、口縁部文様帯は隆沈線を用いる部分と隆線のみ用いる部分があり、大木8 a式の特徴を持っており、この土器は大木8 a式と8 b式両型式の要素を持つ土器であると考えられる。

縄文時代中期後葉に属する土器

大木9式に属すると考えられる土器である。器面全体に文様を描く破片である。完形資料はなく、深鉢の破片である。掲載した破片は口縁部であり、波状口縁や平縁の両方が確認できる。口縁部の文様帯が衰退している破片があるため、大木9 b式であると考えられる。

縄文時代中期に属する土器

詳細な時期は不明であるが、土器の胎土や文様から縄文時代中期に属すると判断した土器片を一括した。主に無文の破片や縄文が施文されている破片である。縄文は単節の斜縄文が多い。

2 石 器

石器は剥片石器と礫石器に区分し、種類ごとに掲載しそれぞれ遺構内（土坑→焼土遺構→遺物包含層）、遺構外の順で掲載した。石器類は礫石器が多く、中でも敲磨石類が多く、剥片石器が少ない傾向が見受けられる。

石鎚・刺突具

扁平で鋭利な左右対称の尖頭部が作出された小型の剥片石器で、矢の先端に用いられたと推定されるものであり、3点掲載した（287～289）。287・289は遺物包含層からの出土である。2点とも基部にわずかに抉りをもつ。288は刺突具と考えられる。基部は平坦で刃部がわずかに抉れる。3点とも北上山地産の頁岩である。

石匙

一端に摘み状の突起を持ち、側縁の一部に刃部を有するもののうち、石錐を除いた2点を掲載した（240・241）。摘みの付き方で縦型と横型に区分でき、縦型と横型いずれも1点ずつ出土している。

石材は北上山地産の頁岩である。

スクレイパー類

石鏨・石匙などには該当しないもので、意図した刃部を作出させていると考えられるものを3点掲載した（242～244）。243は側面、244は端部、242は前面に刃部を作出させている。側縁に刃部が形成され、石材は242が北上山地産のホルンフェルス、244・243は北上山地産の頁岩である。

剥片

剥片剥離作業において算出された石器製作に不適な剥片や縁辺部などに微細な剥離痕が確認されるが、明確な刃部を形成していない剥片を4点掲載した（245～248）。246・245は遺構内出土である。石材は北上山地産の頁岩である。

磨製石斧・打製石斧

形状が斧状の形態の石器である。6点掲載した。なお、打ち欠きや敲打調整（ベッティング）等により、全体の形状が斧状に仕上げられているものは、研磨される前段階の未成品と捉え磨製石斧とした。

磨製石斧は未成品も含めて4点掲載した（249～252）。すべて遺物包含層出土である。249は刃部が破損しているが、全体に擦痕が確認できる。251・252は未成品である。石材はホルンフェルス・頁岩・閃緑岩とさまざまである。

打製石斧は2点掲載した（253・255）。253は端部に刃部を作出しようとしているため打製石斧の未成品とした。255はほぼ完形の打製石斧である。石材は253が砂岩である。

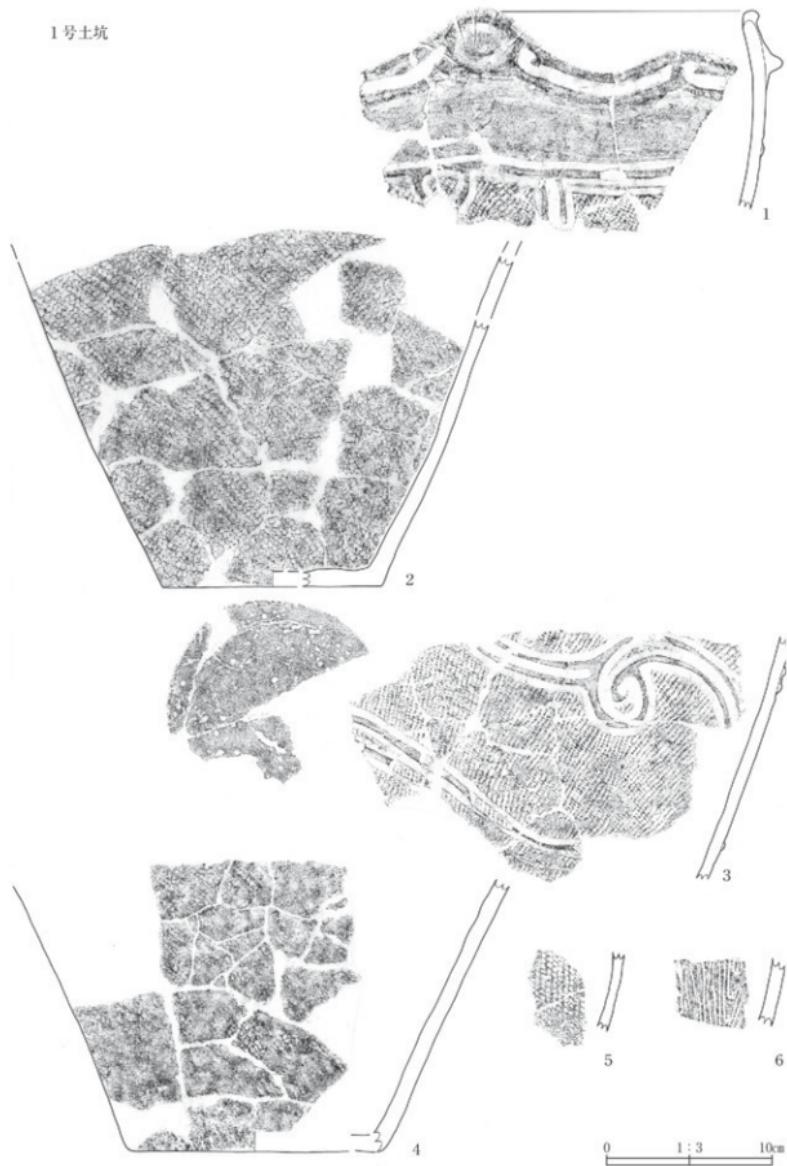
敲磨石類

研磨痕や敲打痕の観察される砾石器で26点掲載した。遺構内は28号土坑と遺物包含層からの出土が多く、上部平坦部からも出土している。敲磨石類は研磨痕跡と敲打痕跡が両方確認できるもの、研磨痕跡のみ確認できるもの、敲打痕跡のみ確認できるもの3つに区分することができる。研磨痕があるものは、特殊磨石と呼ばれる側縁に磨面があるものと、片面あるいは両面に研磨痕があるものに細分できる。今回は特殊磨石も敲磨石類として報告した。主な石材は閃緑岩・花崗岩である。

3 鉄 製 品

遺物包含層から出土した鉄製品である（283）。長さ5.25cm、幅4.0cm、厚さ1.0cmの板状を呈しており、断面形状は三角形である。用途は不明である。

1号土坑



第14図 遺構内出土遺物（1～6）



第15図 遺構内出土遺物（7～19）

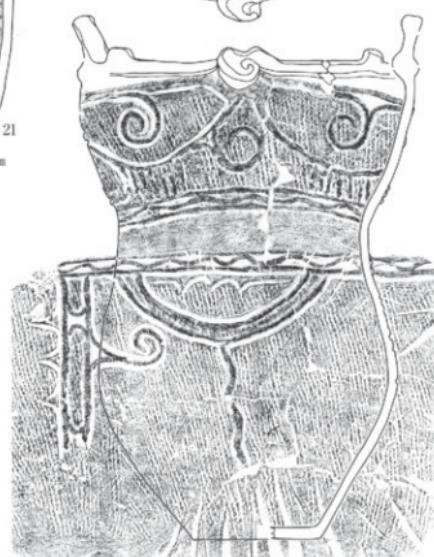
28号土坑



27号土坑



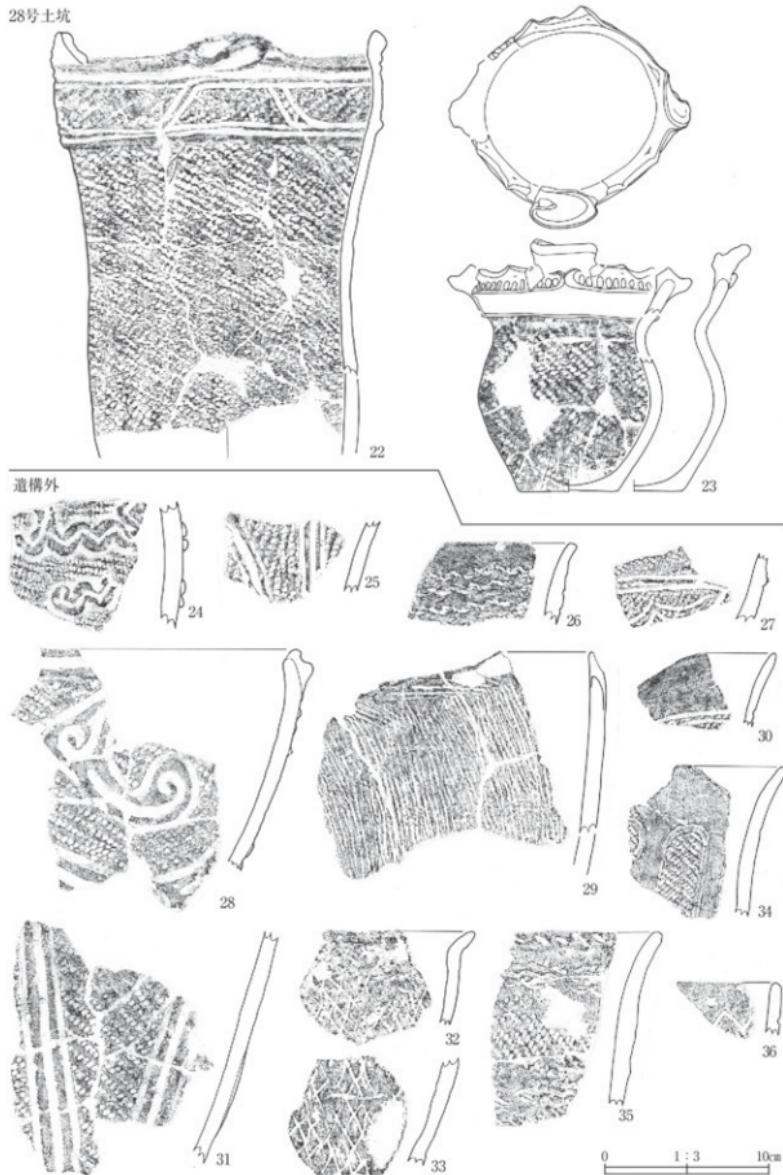
21



20

第16図 遺構内出土遺物（20・21）

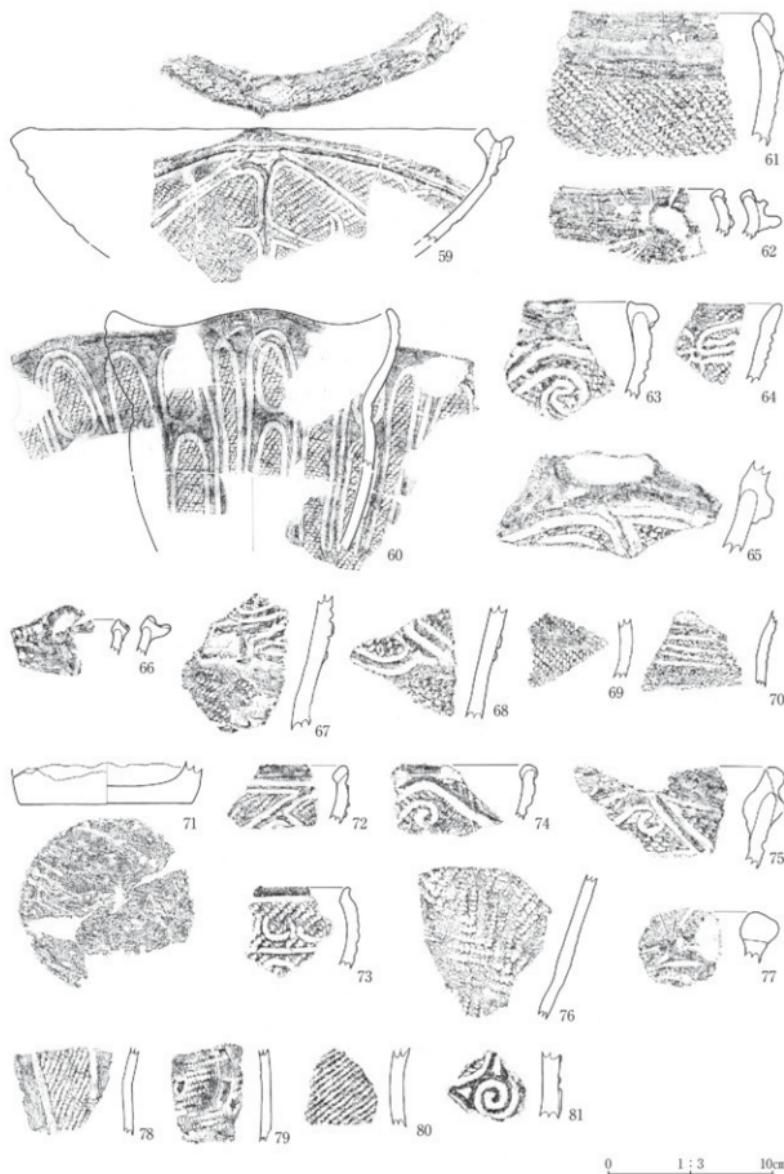
28号土坑



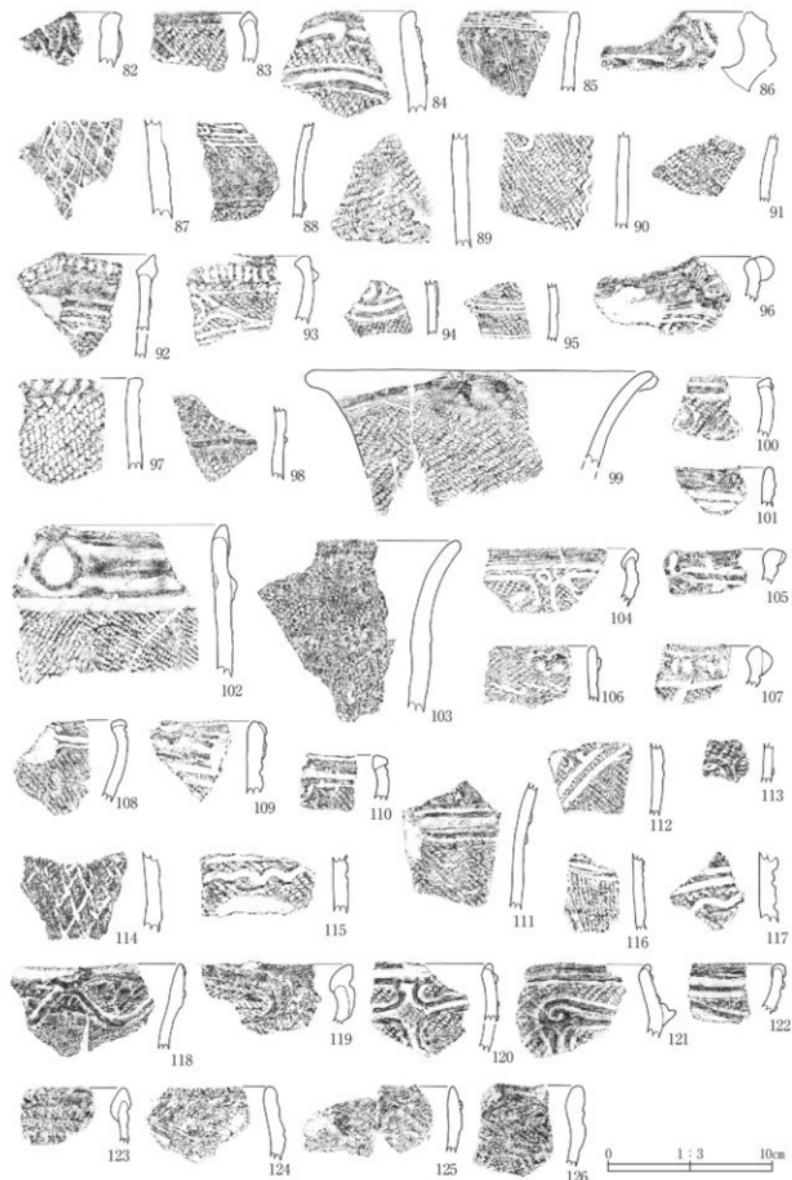
第17図 遺構内・遺物包含層出土遺物 (22~36)



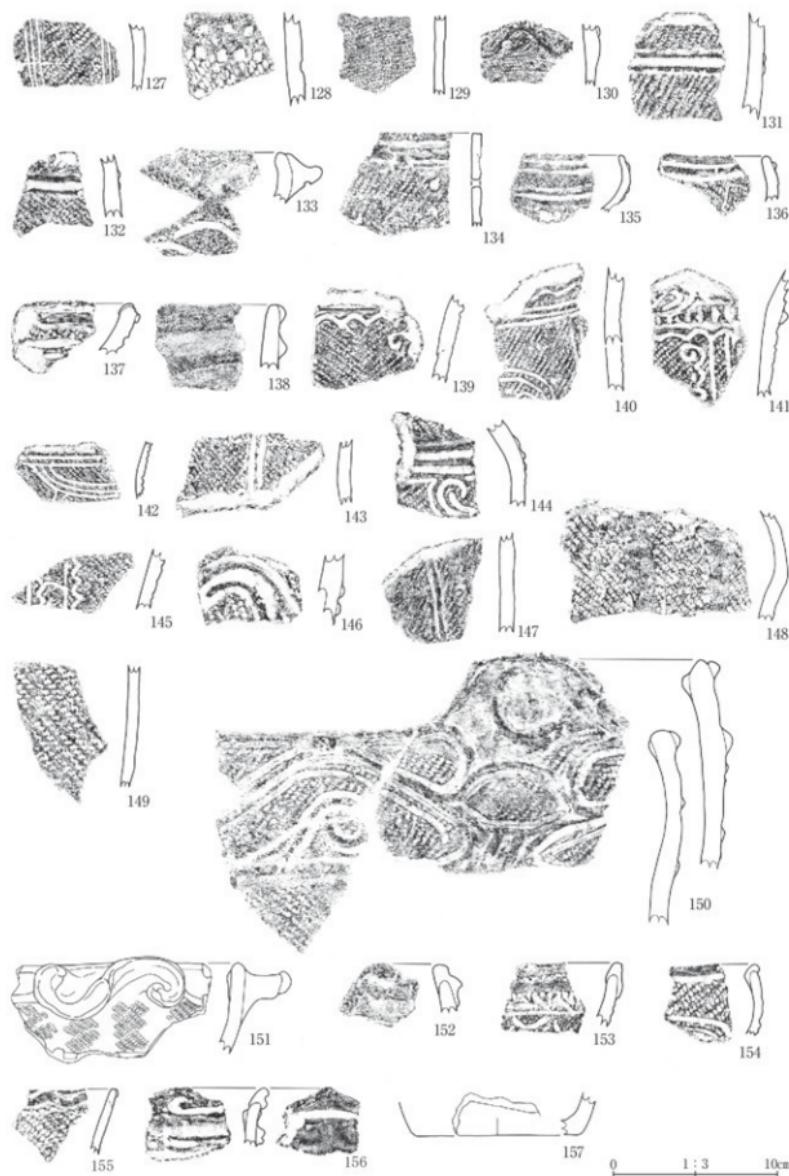
第18図 遺物包含層出土遺物（37～58）



第19図 遺物包含層出土遺物（59～81）



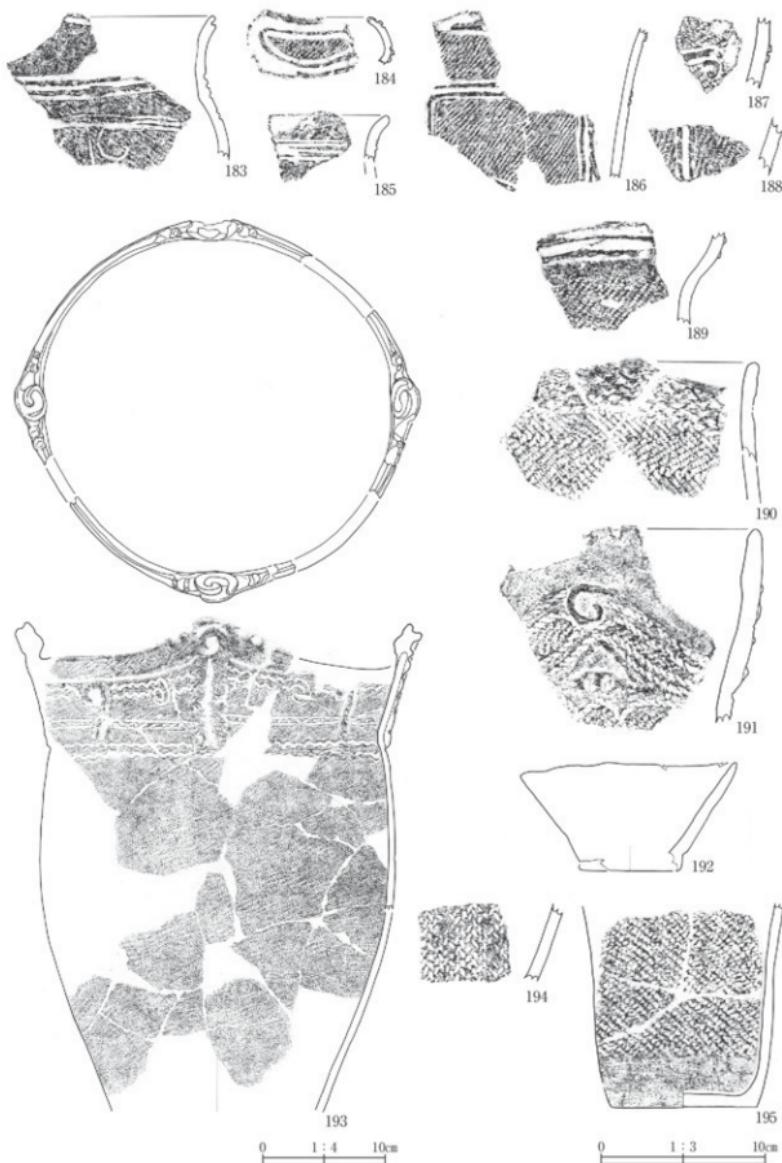
第20図 遺物包含層出土遺物 (82~126)



第21図 遺物包含層出土遺物 (127~157)



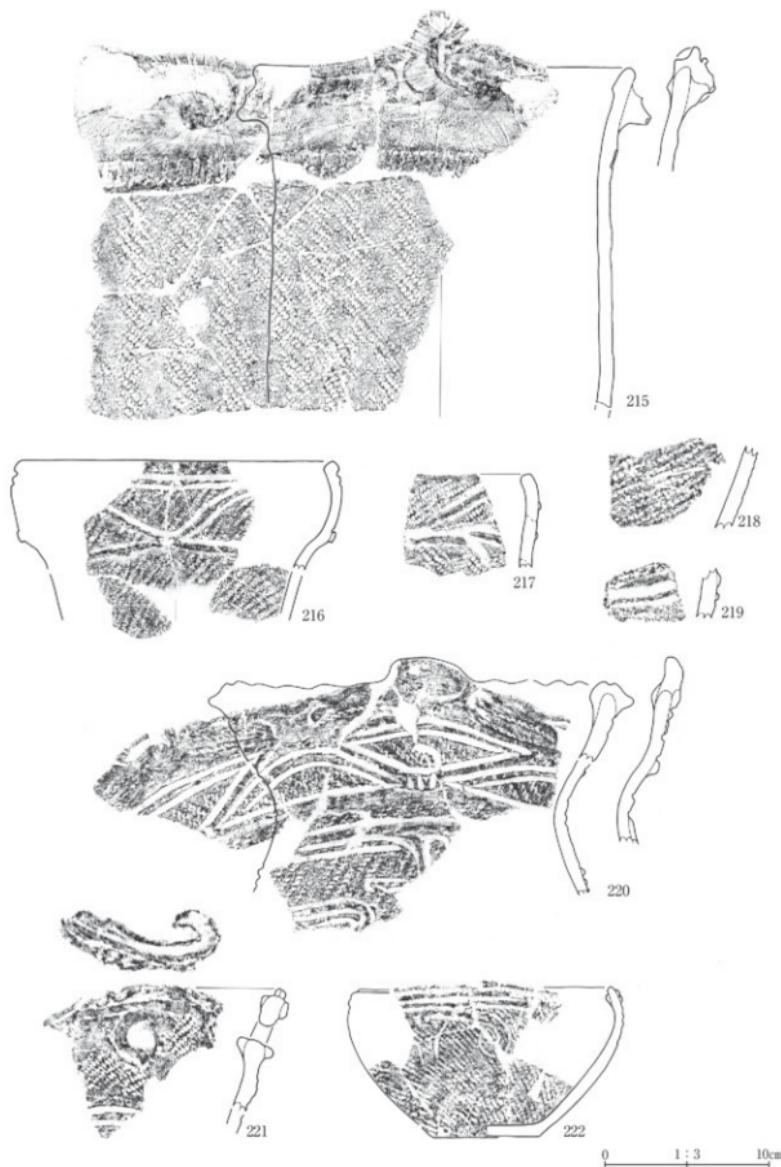
第22図 遺物包含層出土遺物（158～182）



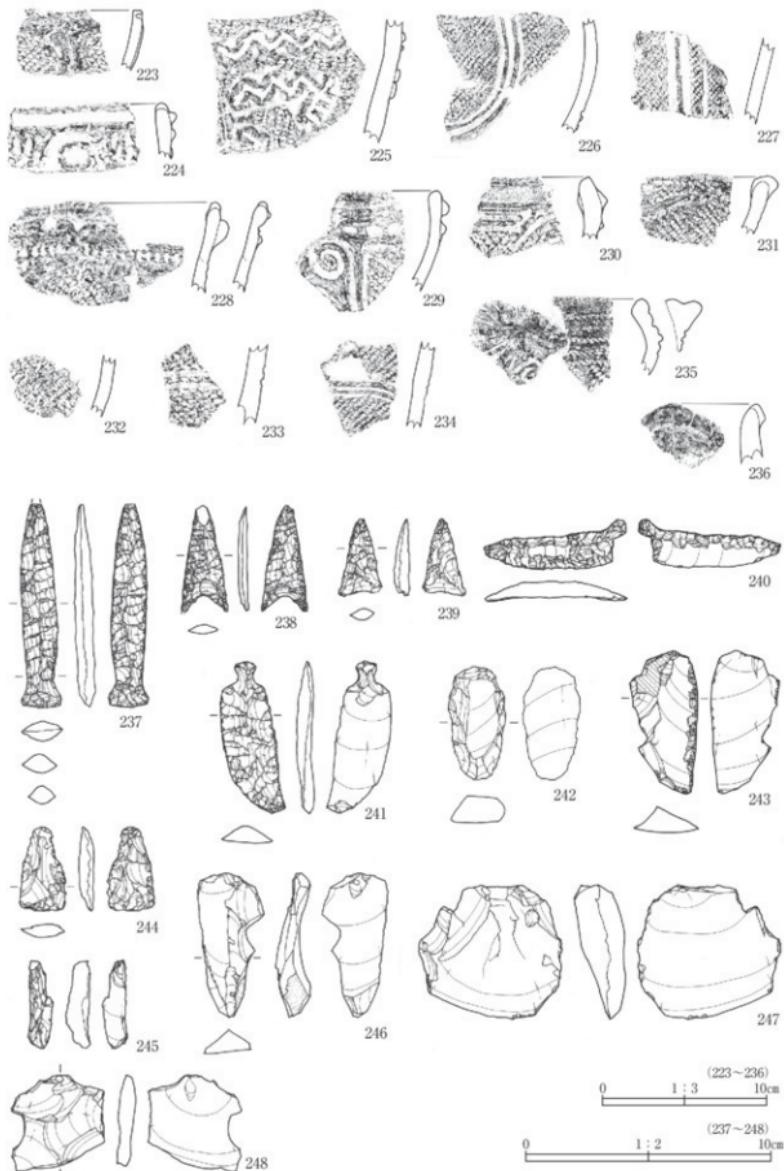
第23図 遺物包含層出土遺物（183~195）



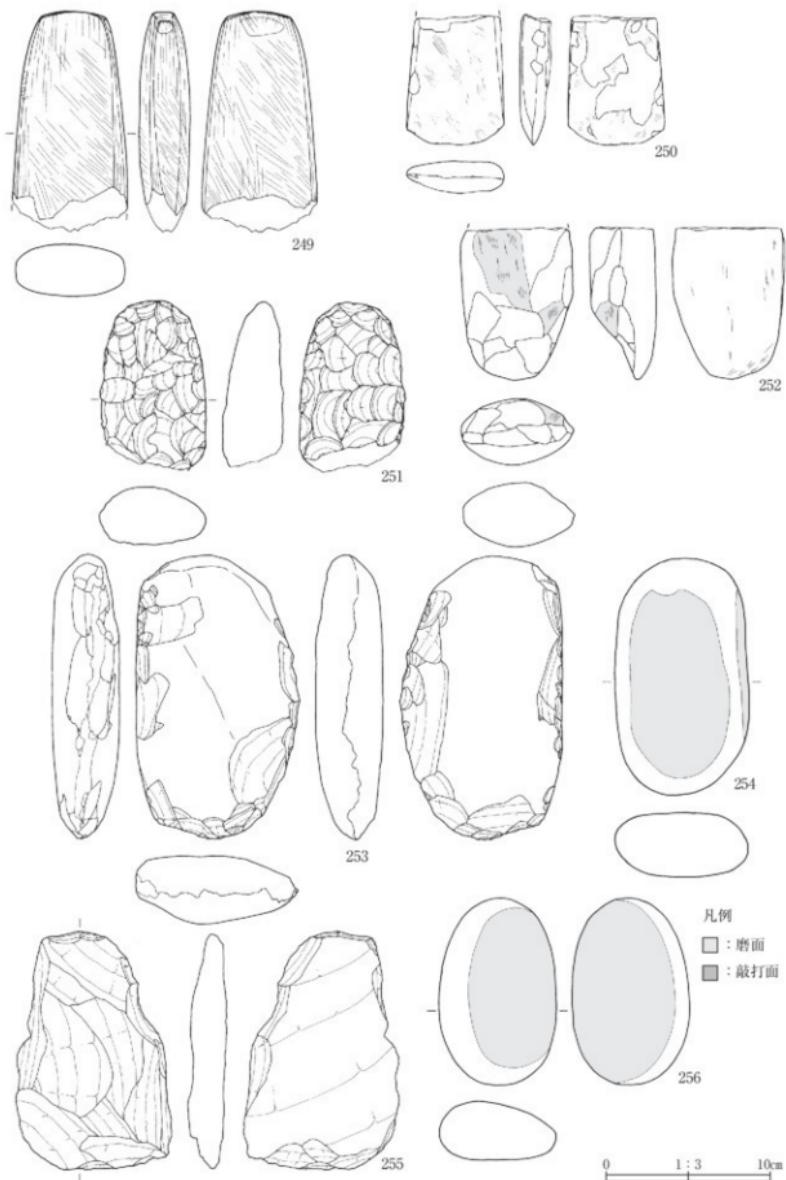
第24図 遺物包含層出土遺物（196～214）



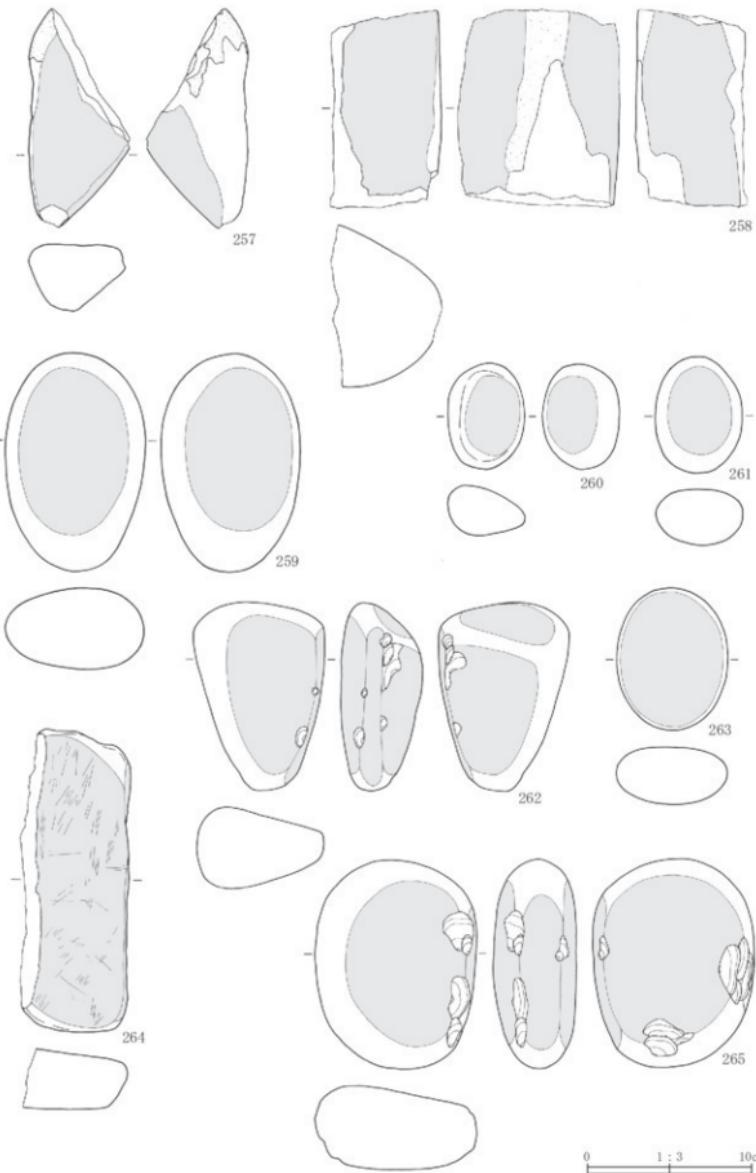
第25図 遺物包含層出土遺物 (215~222)



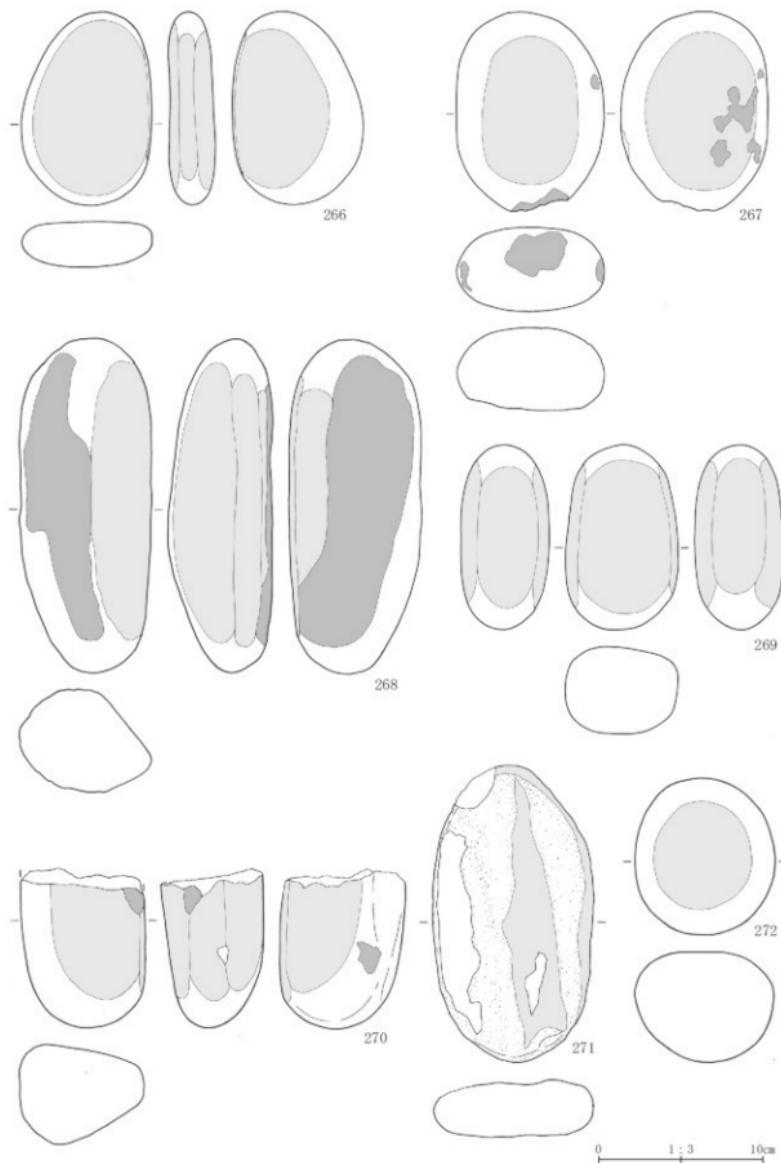
第26図 遺物包含層出土遺物 (223~248)



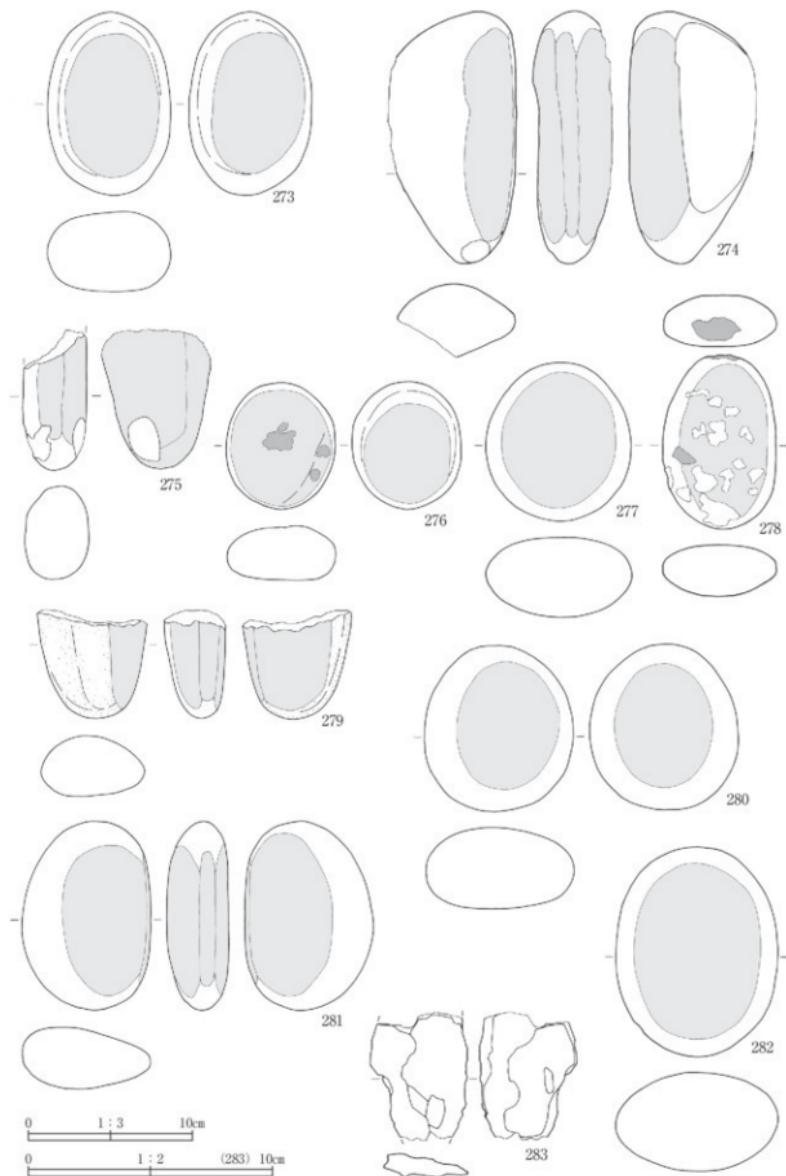
第27図 出土遺物 (249~256)



第28図 出土遺物 (257~265)



第29図 出土遺物 (266~272)



第30図 出土遺物 (273~283)

第4表 土器観察表(1)

番号	出土地点	部位	器種	部位	寸法(cm)・推定値・残存値			施文技法・原体	回収番号
					口径	底径	高さ		
1	1号土坑	埋土	深鉢	口縁～胴部	(31.5)	-	(12.0)	波紋口縁 大流状・小流状が交互に織り返し、底面部に施文大流状・内彫複縹・小流状：波紋	1410
2	1号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	(13.6)	(21.0)	波紋文(LR) タテ→2条1單位渦巻状波紋	1410
3	1号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位渦巻状波紋	1410
4	1号土坑	埋土	深鉢	胴～底部	-	(15.6)	(16.6)	無文	1410
5	2号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	甲輪轍条帶第1期「熱帯文(x)」タテ	1410
6	3号土坑	埋土・下解	深鉢	胴部	-	-	-	甲輪轍条帶第1a期「本日状熱帯文」タテ	1410
7	6号土坑	埋土	深鉢	口縁部	-	-	-	口縁部文様帶：無文 胴部文様：波紋文(LR) タテ→断面状波紋	1500
8	7号土坑	埋土	深鉢	口縁部	-	-	-	口縁部文様帶：横筋円形波紋→捺円形内波紋斜刺 胴部文様：波紋文(LR) タテ	1500
9	12号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ	1500
10	13号土坑	埋土	深鉢	口縁～胴部	-	-	-	口縁部文様帶：横筋円形波紋斜刺傾仄→捺縞貼付 胴部文様：波紋文(LR) タテ	1500
11	13号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位傾仄斜面状波紋	1500
12	20号土坑	埋土	深鉢	口縁～胴部	15.6	(8.6)	22.4	4单位斜面、1前面のみ大流状 1単位文様帶：横筋波状波紋 周間に横筋波紋 胴部文様：波紋文(LR) タテ→2条1單位波状波紋重複	1500
13	20号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	付加要素ナメシメ状波紋斜面状波紋→方形区画沈縞	1500
14	20号土坑	埋土	深鉢	底部	-	4.8	(4.9)	波部・胴部下半：無文	1500
15	21号土坑	埋土	深鉢	胴～底部	-	(11.2)	(9.7)	波紋文(LR) タテ→輪筋波状波紋	1500
16	22号土坑	埋土	深鉢(小型)	変形	7.8	5.0	14.5	筒帶で区画 口縁部文様帶：無文 胴部文様：4単位に区画 2条1單位下垂縞 沈縞(時計回り) 引) を4位	1500
17	23号土坑	埋土	深鉢(胴身)	口縁～胴身	-	11.85	(12.0)	平縞だけが少くのみ流状 3条1單位の傾仄波紋で区画 口縁部文様帶：口縁直下に横縞 胴部文様：波紋文(LR) タテ→3条1單位下垂縞 下垂は一部波状になる	1500
18	25号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	口縁部文様帶：波紋文(LR) タテ→傾仄凹円形・渦巻状波紋	1500
19	25号土坑	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位傾仄波紋が2位單	1500
20	28号土坑	埋土	深鉢	口縁～底部	25.0	10.4	42.9	古状突起(軸1周目)・渦巻状波紋×2 小空起(粘土貼付・規則) 口縁部文様：波紋文(LR) タテ→2口縁・口縁部文様：無文 底部文様：波紋文(LR) タテ→2口縁(軸1周目)・渦巻	1600
21	27号土坑	埋土	深鉢	胴～底部	-	10.0	(12.9)	L.Rタテ→波紋(丁字状・山形) 対す付着 内面横彫刻	1600
22	28号土坑	No.3他	深鉢	口縁～胴部	20.0	-	(26.3)	4単位小空起(口縁～L.Rヨコ→底部) 脱下口縁付付着 対す付着	1700
23	28号土坑	埋土	小深鉢	口縁～底部	12.0	6.0	15.3	古状突起(渦巻)・小空起(縫隙)→剥離 留出 L.Rヨコ	1700
24	II A 9	I層	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位傾仄波紋	1700
25	II A 9 n	埋土	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位傾仄波紋	1700
26	14 h	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	横筋位結節状軸文	1700
27	15 f	II層	深鉢	胴部	-	-	-	口縁部文様帶：波紋文(LR) タテ	1700
28	15 g	II層	深鉢	胴部	-	-	-	胴部文様帶：波紋文(LR) タテ→2条1單位方舟型(凸面)・波状波紋	1700
29	15 g	II層	深鉢	口縁部	-	-	(13.6)	口縁肥厚 口沿に沈縞 波紋文(LR) タテ→2条1單位渦巻状波紋	1700
30	15 g	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	波状口縁 波状文様帶：無文	1700
31	15 g	II層	深鉢	胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→2条1單位第1類(1) タテ・ナメ	1700
32	16 f	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	口縁肥厚 単軸傾仄体第4類「網目状撚糸文」タテ	1700
33	16 f	II層	深鉢	胴部	-	-	-	甲輪轍条帶第4期「網目状撚糸文」タテ	1700
34	17 f	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	波状口縁 波紋文(LR) タテ→斜円形区画沈縞→区画外剥離	1700
35	17 g	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	口唇別み 結節回文 波紋文(LR) タテ→結節回転文	1700
36	17 g	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	1条横筋状波紋	1700
37	17 h	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	内面に段なり 口縁肥厚 捺縞貼付つまみだし→小流状 波紋文(LR) タテ→2条1單位弧状波紋	1700
38	17 h	II層	深鉢	胴部	-	-	-	2条1單位山状波紋	1700
39	17 h	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	波紋文(屋根不明)→渦巻状波紋+横筋沈縞	1700
40	17 i	II層	壺	口縁～胴部	-	-	-	内面に段なり 口縁部文様帶：捺縞貼付(尾) +横筋沈縞+2条1單位傾仄波紋 胴部文様：横筋以降沈縞→波紋文(LR) タテ光沢	1700
41	17 i	II層	深鉢	口縁～胴部	-	-	-	波紋文(LR) タテ→捺円形区画沈縞→区画外剥離	1700
42	17 i	II層	深鉢	口縁部	(19.0)	-	(6.60)	渦巻状の突起 口唇下：無文 口縁部文様帶：波紋文(LR) タテ→横筋沈縞→渦巻状波紋	1700
43	17 i	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	内面に段あり 口縁部文様帶：渦巻状波紋の剥離痕 渦巻状波紋突起 原体貼付(L.Rヨコ)	1700
44	17 i	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	口縁部文様帶：無文 口縁部文様帶：波紋文(LR) タテ→斜円形波状波紋	1700
45	17 i	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	キャラバ形 波紋文(LR) タテ→斜円形波状波紋	1700
46	17 i	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	キャラバ形 波紋文(LR) タテ→斜円形波状波紋	1700
47	17 i	II層	深鉢	先端～口縁	-	-	-	波状口縁 口部肥厚渦巻状の突起 滲頭下草孔 横筋沈縞、横筋 内面に段あり	1700

第4表 土器観察表(2)

陶器番号	出土状況 遺構・地点	層位	部位	寸法(cm)・推定量・残存値			施文技法・原体	回復番号
				口径	底径	厚さ		
48 18 f	II層	深鉢	口縁・脇部	-	(18.0)	(9.8)	口縫部文様帶：無文 口縁内面に1条の縦溝状隕縫付 脇部文様帶：縦文（LR）ヨコ→2条1単位の縦溝状隕縫	1804
49 18 f	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	縦文（RLR）タテ→3条1単位横位沈縫 内面すす付垂	1804
50 18 f	II層	深鉢	口縁下～ 脇部	-	-	-	縦文（RLR）タテ→3条1単位横位沈縫	1804
51 18 f	II層	深鉢 (小型)	底部	-	4.7	(6.2)	縦文（RLR）ヨコ	1804
52 18 h	II層	深鉢	脇部	-	-	(11.9)	脇部文様帶：縦文（RL）ナナメ→3条1単位方形隕縫区画	1804
53 18 h	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	縦文（LR）タテ→渦巻状沈縫	1804
54 18 h	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	波状口縁 内面に2段あり 口縫部文様帶：口縁と底縁に沿う竹管押印状沈縫（ややフリル状） と菱形区画沈縫 区画内に連続する刺突 脇部文様帶：無文	1804
55 18 h	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部文様帶：横位沈縫 脇部文様帶：無文	1804
56 18 h	II層	深鉢	脇部	-	-	-	2条1単位横位沈縫 脇位円形区画沈縫→区画内竹管押印	1804
57 18 h	II層	深鉢	底部	-	(7.8)	(2.0)	縦文（RLR）ヨコ→重複沈縫、斜方向に文様を描く	1804
58 18 h	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）タテ→弧状隕縫	1804
59 18 h	II層	浅鉢？	口縫部	(26.0)	-	(7.8)	口縫肥厚 游巣状起 口縫部文様帶：横位円形隕縫→垂体隕縫 脇部文様帶：縦文（LR）ヨコ→下重複沈縫、斜方向に文様を描く	1804
60 18 h	II層	深鉢	口縁・脇部	(17.0)	-	(14.7)	波状口縁 縦文（RL）→円形・橢円形隕縫区画→削消	1804
61 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	肥厚口縫 縦文（LR）タテ→陰帯 内面に段あり	1804
62 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	2条1単位横位沈縫押印が2単位 単位間は無文 脇貼付によるC字状模様	1804
63 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 粘土貼付突起 口縫部文様帶：縦文（RL）→山状隕縫 +渦巻状沈縫	1804
64 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	波状口縁 縦文（LR）タテ→横位円形隕縫+橢円内波状沈縫	1804
65 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 U字状の隆背付 縦文（RL）→2条1単位横位沈縫・ 弧状沈縫	1804
66 18 i	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 粘土貼付け渦巻状起 口縫部文様帶：無文 内面に 段あり	1804
67 18 i	II層	深鉢	脇部	-	-	-	口縫部文様帶：2条1単位弧状沈縫+「工」字状隕縫 脇部文様帶： 縦文（LR）	1804
68 18 i	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）→下重複沈縫+円形隕縫→区画外削消	1804
69 18 i	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）ヨコ→削消	1804
70 18 i	II層	深鉢・空	脇部	-	-	-	4条1単位横位沈縫	1804
71 19 d	II層	深鉢	底部	-	(10.4)	(2.6)	底部：調査机 脇部：無文	1804
72 19 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 口縫部文様帶：縦文（LR）ヨコ→横位沈縫+斜位沈縫 内面に段を持つ	1804
73 19 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 内面に孔をもつ 口縫部文様帶：縦文（LR）タテ→横位区画+C字状沈縫 脇部文様帶：縦文+C字状沈縫	1804
74 19 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 縦文（LR）施築後 山状隕縫 垂体隕縫で渦巻	1804
75 19 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部文様帶：無文 脇底文様帶：縦文（LR）→横位・斜位横位沈縫 +C字状沈縫 文様付の場合は割り出す	1804
76 19 f	II層	深鉢	脇部	-	-	-	地文縦文（RL）タテ→ヨコ	1804
77 19 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫部肥厚 1口縫部 前縫付 2条1単位の沈縫	1804
78 19 f	II層	深鉢	脇部	-	-	-	地文縦文（RL）タテ後縫付、沈縫で区画し、区内面を削消し	1804
79 19 f	II層	深鉢	脇部	-	-	-	地文縦文（RL）タテ施築後、渦巻状隕縫	1804
80 19 f	II層	深鉢 (胴上手)	脇部	-	-	-	縦文（RL）タテ	1804
81 19 f	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）→渦巻状隕縫	1804
82 19 g	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	山形隕縫	2004
83 19 g	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	口縫肥厚 縦文（RL）タテ→斜位隕縫 斜逸し口縫	2004
84 19 g	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	波状口縁 口縁に2段の隕縫付 液面上にC字状隕縫 縦文（RL） タテ→2条1単位横位沈縫	2004
85 19 g	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	2条1単位横位沈縫（苔管）複数單位 同じ施文具で下重複	2004
86 19 g	II層	深鉢	底部突起	-	-	-	口縫肥厚 突起を持ち、口縁に渦巻状沈縫	2004
87 19 g	II層	深鉢	脇部	-	-	-	單輪轍合せ第4期（崩月状跡・赤文）	2004
88 19 g	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	上部文様帶：縦文（LR）タテ→3条1単位横位沈縫 無文帯 縦文（LR）→横位 沈縫	2004
89 19 g	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）タテ	2004
90 19 g	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（LR）タテ→J字状沈縫・下垂溝状沈縫	2004
91 19 g	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（LR）附加赤文） タテ	2004
92 19 h	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	波状口縁 内面に段 口縫に3条の隕縫・斜位隕突、無文帯 横位隕縫 縦文（LR）→横位 沈縫	2004
93 19 h	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	横位隕縫→逆続利突 縦文（LR）ヨコ→横位・渦巻状沈縫	2004
94 19 h	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（RL）→渦巻状沈縫	2004
95 19 h	II層	深鉢	脇部	-	-	-	縦文（LR）タテ→3条1単位横位沈縫	2004
96 20 c	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	横位円形隕縫面 2条1単位横位沈縫	2004

第4表 土器観察表（3）

陶器番号	出土状況 遺構・地点	層位	器種	部位	寸法(cm)・測定値の残存値			施文技法・原体	国版番号
					口径	底径	器高		
97 20 e	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	-	口唇に削み 織文 (LR) ヨコ	2006
98 20 c	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	-	横位区画隠縫 上部：原体側面の溝巻+原体側柱縫沈縫 下部：無文	2006
99 20 d	II層	深鉢	口縁部	(302)	-	(6.6)	-	口唇に削み 織文 (LR) ヨコで羽根状織文	2006
100 20 d	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	-	横位隠縫 織文 (LR) タテ→溝巻状隠縫	2006
101 20 d	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	-	口縫肥厚 粗目と刷毛付 2条1単位の横位沈縫	2006
102 20 d	II層	深鉢	口縁部	-	-	-	-	小突起あり 横位区画隠縫 上部文様帶：無文 下部文様帶：無文	2006
103 20 d	II層	深鉢	口縫～側部	-	-	-	-	口縫肥厚 植物的輪文又タテ (オハバ花文の可能性) あり	2006
104 20 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫肥厚 織文 (LR) ヨコ→方形区画隠縫+円形状沈縫	2006
105 20 d 21 d 21e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫肥厚 流田面に粘土粒貼付+削み 横位沈縫	2006
106 20 d 21 d 21e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	M字状隠縫 (LR) ヨコ→結節状軸文ヨコ	2006
107 20 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	横位隠縫貼付+過長刺突 横位区画沈縫 織文 (LR) タテ	2006
108 20 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫肥厚 2条1単位横位沈縫 織文 (LR?) ナナメ？ 斜付看	2006
109 20 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	L3口縫肥厚 2条横位沈縫跡縫 2条1単位横位沈縫	2006
110 20 d	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫肥厚 横位沈縫 織文 (LR) タテ→横位V字状沈縫	2006
111 20 d 21 d 21e	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	2条横位区画隠縫 上部文様帶：無文 下部文様帶：織文 (LR) タテ	2006
112 20 d	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→2条1単位状沈縫	2006
113 20 d	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	織文 (LR) →弧状沈縫 (溝巻文の可能性あり)	2006
114 20 d 21 d 21e	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	單輪轍全係第1類 [熱布文] タテ→3条1単位の横位沈縫+斜位沈縫	2006
115 20 d	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→横位沈縫+横位浅状沈縫	2006
116 20 d	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	單輪轍全係第1類 [熱布文] タテ→3条1単位の横位沈縫+斜位沈縫	2006
117 20 d	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	2条1単位横位沈縫+波状沈縫	2006
118 20 e	II層	口縫～側部	口縫部	-	-	-	-	口縫部文様帶：織文 (LR) ヨコ→2条の液状隠縫 区画内に横位、斜位捺付内形押付	2006
119 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	内面に段取り 斜位捺付内形押付 原体底盤 前円形間隔原体底盤 前円形と前円形との間に捺付斜位捺付原体底盤	2006
120 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口唇に横位隠縫 織文 (LR) ヨコ→刀形隠縫 すず付看	2006
121 20 e	II層	浅鉢	口縫部	-	-	-	-	横位浅状沈縫 織文 (LR) タテ→2条1単位隠縫で溝巻状凸起を含む下垂隠縫	2006
122 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	横位浅沈縫 織文 (原体不明) →斜位浅沈縫	2006
123 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	内面に段取り 斜位捺付内形押付底盤 前円形間に横位原体底盤	2006
124 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫部に通級羽状突起	2006
125 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫部文様帶：織文 (LR) ヨコ→2条液状隠縫 区画内に波状原体底盤	2006
126 20 e	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	横位部に通級羽状突起	2006
127 20 e	II層	深鉢	側部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→2条1単位下垂沈縫	2110
128 20 e	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	2段連続内形押付 織文 (LR) タテ	2110
129 20 e	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	付加部 (LR-L) タテ	2110
130 20 e	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	口縫部文様帶：織文 (LR) ヨコ→2条の液状隠縫 区画内に原体側柱	2110
131 20 e	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→横位隠縫+横位沈縫	2110
132 20 e	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→2条1単位隠縫 スヌ付看	2110
133 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	溝巻状伏突 上部：原体側柱 下部：弧状沈縫	2110
134 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口唇部文様帶：無文 口縫部文様帶：織文 (LR) タテ 補修孔	2110
135 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	横位区画隠縫 上部：文様帶：無文 下部：文様帶：織文	2110
136 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	横位隠縫 下部：織文 (LR) タテ→下部：横位沈縫	2110
137 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	織文 (LR) →横位隠縫+横位沈縫	2110
138 20 f	II層	深鉢	口縫部	-	-	-	-	口縫肥厚 横位隠縫	2110
139 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	希結合部横位沈縫 (LR) 向右方→横位沈縫+横位浅状沈縫+溝巻 (足尖付) タテ→2条1単位下垂看 原体底盤：織文 (LR) 丸孔	2110
140 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	3条1単位横位沈縫 (LR) 向右方→横位沈縫+横位浅状沈縫+溝巻 (足尖付) タテ→2条1単位下垂看 原体底盤：織文 (LR) 丸孔	2110
141 20 f	II層	深鉢	頭～側部	-	-	-	-	横位区画隠縫 疊帯に通級羽状突起 上部文様帶：C字形沈縫 下部文様帶：織文 (LR) タテ→横位液状沈縫+横位沈縫+溝巻	2110
142 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) ヨコ→3条1単位横位	2110
143 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→2条1単位下垂沈縫	2110
144 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	2条1単位の横位区画沈縫 上部：織文 (RL) 下部：織文 (LR) →手縫済	2110
145 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→横位区画沈縫 上部：横位沈縫間に丁字状沈縫	2110
146 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) ヨコ→2条1単位横位沈縫	2110
147 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR) タテ→2条1単位下垂沈縫	2110
148 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR-L) をタテ→酒呑	2110
149 20 f	II層	深鉢	頭部	-	-	-	-	織文 (LR-L)	2110

第4表 土器観察表(4)

測量番号	出土状況	番号	部位	寸法(cm)・単位値・残存値			施文技法・原体	図版番号
				口径	底径	厚さ		
150	20 h	黒褐色土	深溝	口縁～胴部	-	-	吉狀突起(溝状旋錐付) 口縁：L 異タテ ゴヨ→降沈縦	2116
151	20 h	黒褐色土	深溝	口縁部	-	-	粘土貼付(横位 S字状) →底縫 L 異タテ	2116
152	21 c	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	口縁肥厚 溝巻状突起	2116
153	21 c	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	無文 内側円錐形唇部内側にS字状旋錐	2116
154	21 c	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	縞文 (LR) タテ→横位・弧状沈縦 内面に張り出し	2116
155	21 c	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	溝状旋錐 縞文 (LR) タテ 縮筋あり	2116
156	21 c	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	小突起 口縁に沿う横位沈縦が突起下で溝巻状沈縦 口縁部支錐	2116
157	21 c	Ⅱ層	深溝	底部	-	(10.0)	(2.6) 無文	2116
158	21 c	Ⅱ層	深溝	突起～口縁～胴上部	(30.0)	-	穿孔を中心とした、隠れ装飾を突起を作る。 表面：口縁部のみで溝巻状 横位粘円錐縫でX字状の横切削手綱 側面：縞文 (LR) タテ→横位沈縦・弧状沈縦 表面：横位沈縦・円形 隆縫	2206
159	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	(22.0)	-	(10.4) 口縁部文様帶：弧形連續刻突 縞文 (LR) →指円形沈縦→円形内 側面文様帶：縞文 (LR) タテ→横位沈縦	2206
160	21 d	Ⅱ層	深溝	胴～底部	(11.0)	(16.7)	脚筋：縞文 (LR) タテ 底部：筋み	2206
161	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	(16.4)	(3.5)	横位隆縫 下部：無文	2206
162	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	横位沈縦 縞文 (LR) ゴヨ 内面に段あり	2206
163	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	口縁肥厚 縞文 (LR) タテ 折返し口縁	2206
164	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	口縁肥厚 溝巻状旋錐 内縫(弧状) 突体側圧	2206
165	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	耳状小突起 口縁に沿う降沈縦 2条1單位円形沈縦	2206
166	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	横位圓筒形側縫 突起に刺す 口縁部文様帶：3条1單位横位側縫 脚筋：縫式側縫 縞文 (LR) タテ	2206
167	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	小突起 四形刺突 口縁肥厚付し沈縦 縞文 (LR) タテ→3条1單位 横位沈縦・3条1單位Y字沈縦	2206
168	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	小窓状側縫 口縁に沿う横位沈縦 流田溝巻 縞文 (LR)	2206
169	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	口縁部文様 4条1單位横位沈縦	2206
170	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	小突起 突起状円形隆縫・縦体側圧	2206
171	21 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	口縁肥厚 2条1單位原位原体側圧 縞文 (LR) タテ	2206
172	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→3条1單位Y字沈縦	2206
173	20 f	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→2条1單位Y字沈縦	2206
173	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	横位降縫・隠れに刺す 上部文様帶：横筋・斜位沈縦 下部文様 帶：無文	2206
174	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→円形(弧状)・横位降縫 溝巻状か?	2206
175	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	准純円形刺突・准純Y字形刺突 下部は縞文 (LR) タテ+原体押圧	2206
176	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) ハコ→3条1單位内縫(弧状) 沈縦	2206
177	21 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	横位降縫・縫間に刺す 2条1單位Y字沈縦	2206
178	21 e	Ⅱ層	浅溝?	口縁部	-	-	横位沈縦 文様帶：縞文 (LR) ゴヨ→渦巻状旋錐+菱形隆縫	2206
179	21 e	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	2条1單位横位沈縦 縞文 (LR) タテ→2条1單位斜位降縫+渦巻状 隆縫	2206
180	21 e	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ	2206
181	21 e	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	横位圓筒形側縫 接縫に粘土貼付+原体側圧 上部文様帶：横位原 体側圧 下部文様帶：縞文 (LR) のみ	2206
182	21 e	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) →2条1單位渦巻状沈縦	2206
183	21 f	Ⅱ層	深溝	口縁～胴部	-	-	口縁部文様帶：1条横位沈縦+3条1單位横位沈縦で区画され。区画 内は無文、銅足文様帶：縞文 (LR) タテ→横位沈縦・Y字状沈縦+ト 型沈縦 十字付帯	2306
184	21 f	Ⅱ層	浅溝?	口縁部	-	-	横位沈縦 横位圓筒形側縫沈縦 区画内縫文 (LR) ゴヨ	2306
185	21 f	Ⅱ層	深溝?	口縁部	-	-	4条横位沈縦	2306
186	21 f	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) ゴヨ→2条1單位円形側縫	2306
187	21 f	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→渦巻状隆縫	2306
188	21 f	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→2条1單位Y字沈縦	2306
189	21 f	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	2条1單位横位側縫 横位側縫 原位側縫 原位側縫+縫式側縫 縫縫 原位側縫+縫式側縫	2306
190	21 h	黒褐色土	深溝	口縁部	-	-	小窓状側縫 热帯 (1) 1.1直角來羽状縫文	2306
191	23 g	包含層	浅溝	口縁部	-	-	吉狀突起 降縫 (渦巻状) 原体側圧	2306
192	23 g	黒褐色土	深溝	口縁～底部	-	-	無文	2306
193	23 g	No50他	深溝	口縁～胴部	38.0	-	(49.9) 小突起(粘土貼付、渦巻文、斜口) × 4、口縁：粘土貼付→R L D コヨ→沈縦 脚：R L タテ	2306
194	23 g	黒褐色土	深溝	胴部	-	-	縞文	2306
195	23 g	包含層	深溝	底部	-	-	L R タテ 底部付近は無文 寸付有	2306
196	23 g	No59他	深溝	口縁部	-	-	口縁：粘土貼付→窓突 脚：R L D 窓突付	2306
197	24 d	Ⅱ層	深溝	口縁部	-	-	渦巻状口縁 横位圓筒形側縫上部文様帶：口縁肥厚 測位沈縦側縫 下 部文様帶：縞文 (LR) (原位不明) 粘移孔あり上部に大きくなぐり	2406
198	24 d	Ⅱ層	底?	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→横位・縫式沈縦	2406
199	24 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ→横位沈縦+下位沈縦	2406
200	24 d	Ⅱ層	深溝	胴部	-	-	縞文 (LR) タテ	2406

第4表 土器観察表（5）

査載 番号	出土状況	形種	部位	寸法(item)・断定値・残存状況			施文法・原体	図版番号
				口径	底径	器高		
201	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	口縫肥厚・斜位壁面付・側溝・下垂沈縫	2408
202	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	横位区画壁付・対壁側柱	2408
203	2トレンチ	Ⅱ層	浅鉢?	口縁～胴部	(48.0)	-	口縫肥厚・対壁壁面付・側溝状全体側柱	2408
204	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢(小型)	口縁～胴部	(11.4)	-	口縫肥厚・対壁壁面付・側溝状全体側柱	2408
205	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	底内小穴付・横位側柱・無文	2408
206	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	半輪脚全体付4脚(瓶口状底部)・テナ	2408
207	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢?	胴部	-	-	2条1單位下垂沈縫間に矢状状刺突・横位U字状沈縫	2408
208	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	底内U縫・弧状側柱・無文(LR)→テナ2条1單位円形降縫	2408
209	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	2條1單位小穴付・横位側柱刺突・降縫付柱・降縫下部・無文	2408
210	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	半輪脚全体付1脚ナタメ→2条1單位下垂沈縫	2408
211	2トレンチ	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	渦巻状沈縫	2408
212	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	底内U縫付柱・底面摩耗・2条1單位横位円形沈縫・円形トサ付・斜位側柱・降縫上・通縫側刺突・中間の高台?・渦巻?・渦巻ないけど…	2408
213	4トレンチ付付	Ⅱ層	深鉢(小型)	口縁～胴部	(10.0)	-	口縫肥厚付口縫・横位側柱・無文(LR)→底内渦巻沈縫区画	2408
214	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	渦巻状沈縫	2408
215	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	(22.6)	-	横位円形降縫が複数形し、C字状変起	2508
						(22.6)	口縫肥厚付側縫・横位側柱で上下区画・底内側刺突・無文帯を挟み連続側縫	2508
216	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁～胴部	(19.0)	-	口縫肥厚付側縫(LR)→横位側柱で上下区画・底内側刺突	2508
217	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	無文(LR)→横位・斜位側縫	2508
218	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)→テナ	2508
219	4トレンチ	Ⅱ層	深鉢	胴部～頭部	-	-	2条1單位底付降縫付柱・無文(LR)	2508
220	遺物包含層		黒褐色土	口縁	-(22.0)	-	舌状突起付・口縫・底縫・側縫・沈縫・無文・頭部LR→底沈縫	2508
221	遺物包含層		黒褐色土	口縁	-	-	底縫付柱・口縫・底縫・側縫・LRテナ→底縫・寸法不詳付者	2508
222	遺物包含層		黒褐色土	口縫	-	-	口縫・底縫・側縫・Lテナテナ→底縫・底縫	2508
223	上段	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	無文(LR)→テナ・横位円形降縫	2608
224	上段	表土	深鉢	口縁部	-	-	横位円形降縫付柱・口内通縫方形刺突・渦巻	2608
225	上段	表土	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)→横位圓筒状側縫付柱・斜位側柱降縫	2608
226	上段	表土	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)→テナ2条1單位円形底沈縫	2608
227	下段	表土	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)→底内渦巻沈縫	2608
228	下段	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	口縫肥厚付・口縫・底縫・側縫・Lテナ→底縫・渦巻状沈縫	2608
229	F段		深鉢	口縁部	-	-	2条1單位横位底縫・降縫間連続側刺突・無文(LR)→テナ下垂底沈縫・渦巻状底沈縫	2608
230	F段	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	内方に段凹・無文(LR)ヨコ→横位・斜位側縫	2608
231	F段	Ⅱ層	深鉢	口縁部	-	-	口縫肥厚・口縫の一部崩れあり・無文(LR)→斜位側縫	2608
232	F段	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)ヨコ	2608
233	F段	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	横位円形降縫付柱・口内通縫方形刺突・渦巻	2608
234	F段	Ⅱ層	深鉢	胴部	-	-	無文(LR)→テナ2条1單位底付沈縫・沈縫間無文	2608
235	表土		深鉢	胴部	-	-	横位円形底付側柱付・口内横位底付側柱・渦巻状底縫付柱2条1單位横位底付側柱	2608
236	表土		1ニチニ ア??	-	-	-	無文	2608

第5表 石器観察表

査載 番号	出土状況	寸法(cm)	重量(g)	種類	石質	施考	図版番号	写真回数	
237	西側斜面	上位黑色土	8.3	1.6	0.8	105	斜尖具	頁岩	2608
238	23 g	黒褐色土	4.3	1.9	0.4	28	石鏃	頁岩	2608
239	23 g	黒褐色土	6.4			23	石鏃	頁岩	2608
240	2号土坑	埋土一括	5.8	2.0	0.8	77	石鏃	頁岩	2608
241	7号土坑	埋土一括	6.2	2.6	0.7	105	石鏃	頁岩	2608
242	横面部	黒褐色土	6.9	3.5	1.7	555	スクレイパー類	カルシフェリス	2608
243	29 b	黒褐色土	5.8	2.2	1.0	145	スクレイバー類	頁岩	2608
244	16 f	Ⅱ層	3.5	2.0	0.6		スクレイバー類	頁岩	2608
245	22号土坑	埋土一括	3.6	1.0	0.9	61	刮片	頁岩	2608
246	7号土坑	埋土一括	5.9	2.2	1.4	135	刮片	頁岩	2608
247	20 e	a類	5.5	2.9	2.1	631	刮片	頁岩	2608
248	3トレ	Ⅱ層(黑)	4.0	3.8	0.8	118	刮片	頁岩	2608
249	19 g	Ⅱ層	9.1	4.7	2.1	1685	磨製石斧	頁岩	2708
250	21 h	黒褐色土	8.0	5.8	1.9	1576	磨製石斧	頁岩	2708

掲載番号	出土状況		寸法(cm)			重量(g)	種類	石質	備考	図版番号	写真図版
	位置・遺構	層位	長さ	幅	厚						
251 17ト i	日觸		10.3	6.5	3.7	378.1	磨製石斧	カルシフェルス	27回	18	
252 西側斜面	-		6.2	6.8	3.9	354.1	磨製石斧	カルシフェルス	27回	18	
253 檻出面	黒褐色土		17.4	9.9	4.1	922.6	打製石斧	砂岩	27回	18	
254 26号土坑	埋土一括		14.5	8.3	4.3	809.7	磨製石頭	カルシフェルス	27回	18	
255 20 i	日觸		14.5	9.5	2.4	394.0	打製石斧		27回	18	
256 2号土坑	埋土一括		12.3	7.2	3.6	433.4	磨製石頭	アブライト	27回	18	
257 28号土坑	埋土上部		13.4	6.1	5.1	454.6	磨製石頭	閃緑岩	28回	18	
258 28号土坑	埋土上部		12.1	9.85	6.8	1236.3	磨製石頭	閃緑岩	28回	18	
259 18 h	日觸		13.3	8.5	5.0	829.2	磨製石頭	アブライト	28回	18	
260 28号土坑	埋土上部		11.2	7.5	4.9	439.7	磨製石頭	アブライト	特殊磨石か?	28回	18
261 18 h	日觸		7.1	5.3	3.4	195.4	磨製石頭	アブライト	28回	18	
262 18 h	日觸		11.5	8.0	5.0	509.1	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	28回	18
263 18 i	日觸		8.7	6.8	3.5	303.6	磨製石頭	アブライト	28回	18	
264 28号土坑	埋土		19.5	6.8	3.7	947.3	磨製石頭	カルシフェルス	28回	18	
265 18 i	日觸		12.7	9.9	5.1	966.7	磨製石頭	花崗岩	特殊磨石	28回	18
266 18 i	日觸		11.9	8.0	2.9	481.0	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	29回	19
267 18 i	日觸		12.2	9.0	5.1	892.4	磨製石頭	花崗岩		29回	19
268 19 g	日觸		20.4	8.1	6.4	1661.5	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	29回	19
269 20 e	日觸		11.3	6.9	5.4	653.8	磨製石頭	花崗岩		29回	19
270 19 g	日觸		9.7	7.6	6.3	646.7	磨製石頭	花崗岩	特殊磨石	29回	19
271 20 h	黒褐色土		18.0	9.8	3.5	1033.3	磨製石頭	片麻岩		29回	19
272 21 d	日觸		9.6	8.6	6.7	804.0	磨製石頭	アブライト		29回	19
273 20 i	日觸		11.2	7.5	4.9	666.9	磨製石頭	花崗岩		30回	19
274 21 f	日觸		15.4	7.8	4.8	738.4	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	30回	19
275 23 g	黒褐色土		8.5	6.6	3.9	273.4	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	30回	19
276 23 g	黒褐色土		7.7	6.7	3.3	262.9	磨製石頭	花崗岩		30回	19
277 4 レンチ付瓦	表様		9.6	8.9	4.9	587.0	磨製石頭	アブライト		30回	19
278 4 レンチ	日觸(黒色土)		11.1	7.0	3.1	388.2	磨製石頭	閃緑岩		30回	19
279 遺物配合類	検査面		6.6	6.7	3.75		磨製石頭		特殊磨石	30回	19
280 上段表様	-		10.2	9.1	5.0	668.9	磨製石頭	花崗岩		30回	19
281 表上下段上			11.5	7.9	3.8	523.5	磨製石頭	閃緑岩	特殊磨石	30回	19
282 表面 表様			12.8	10.0	6.0	1076.4	磨製石頭	アブライト		30回	19

第6表 鉄製品観察表

掲載番号	出土状況		寸法(cm)			重量(g)	形狀	図版番号	写真図版
	遺構・地点	層位	長	幅	厚				
283 4 レンチ	I 層		3.25	4.0	1.0	-	板状	30回	19

VI 松磯遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

松磯遺跡は、岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里第13地割字松磯3ほか（北緯39° 29' 20"、東經141° 56' 16"）に所在する。測定対象試料は、土坑から出土した木炭4点である（第7表）。

2 化学処理工程

- (1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第7表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である（第7表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第7表に、補正していない値を参考値として第8表に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい (¹⁴Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第7表に、補正していない値を参考値として第8表に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第8表に示した。历年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

5 測 定 結 果

測定結果を第7・8表に示す。試料の¹⁴C年代は、1が $4070 \pm 30\text{yrBP}$ 、2が $4390 \pm 30\text{yrBP}$ 、3が $4960 \pm 30\text{yrBP}$ 、4が $4380 \pm 30\text{yrBP}$ である。2と4の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致する。

历年較正年代 (1σ) は、1が繩文時代中期後葉から末葉頃、2、4が中期中葉頃、3が前期後葉頃に相当する (小林編 2008)。試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

参考文献

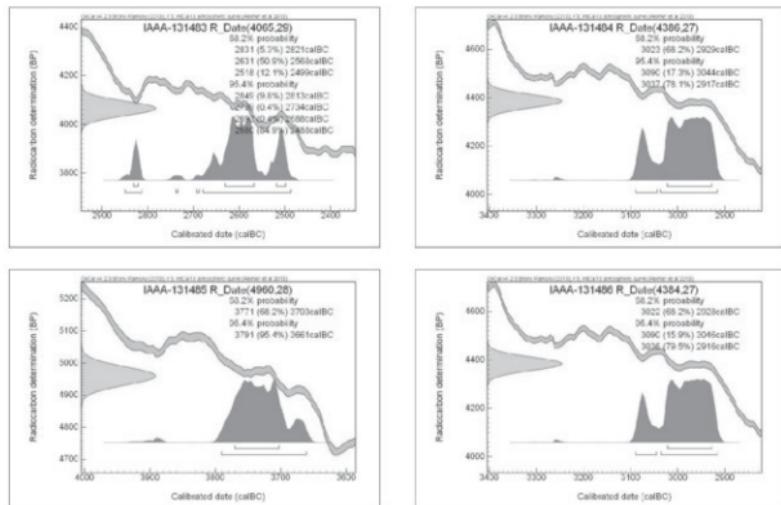
- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 紹観繩文土器、紹観繩文土器刊行委員会、アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第7表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり		
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)	
IAAA-131483	1	1号土坑埋土	木炭	AAA	-27.75 \pm 0.64	4070 \pm 30	60.28 \pm 0.22	
IAAA-131484	2	3号土坑下層	木炭	AAA	-29.09 \pm 0.26	4390 \pm 30	57.92 \pm 0.20	
IAAA-131485	3	7号土坑埋土	木炭	AAA	-26.61 \pm 0.46	4960 \pm 30	53.93 \pm 0.19	
IAAA-131486	4	20号土坑埋土下層	木炭	AAA	-26.58 \pm 0.61	4380 \pm 30	57.94 \pm 0.20	

第8表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年年代範囲	2σ 暦年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-131483	4,110 ± 30	59.94 ± 0.22	4,065 ± 29	2831calBC - 2821calBC (5.3%) 2631calBC - 2568calBC (50.9%) 2518calBC - 2499calBC (12.1%)	840calBC - 2813calBC (9.8%) 2730calBC - 2774calBC (0.4%) 2693calBC - 2698calBC (0.4%) 2680calBC - 2488calBC (84.9%)
IAAA-131484	4,450 ± 30	57.44 ± 0.20	4,386 ± 27	3023calBC - 2929calBC (68.2%)	3099calBC - 3041calBC (17.2%) 3025calBC - 2917calBC (78.1%)
IAAA-131485	4,990 ± 30	53.75 ± 0.19	4,960 ± 28	3771calBC - 3703calBC (68.2%)	3795calBC - 3661calBC (95.4%)
IAAA-131486	4,410 ± 30	57.75 ± 0.20	4,384 ± 27	3022calBC - 2928calBC (68.2%)	3099calBC - 3046calBC (15.9%) 3036calBC - 2916calBC (79.5%)



第31図 暦年較正年代グラフ（参考）

VII まとめ

今回実施した松磯遺跡の発掘調査の結果、縄文時代前期前葉から中期後葉までの遺構・遺物が発見され、縄文時代に貯蔵が行われた遺跡であることが明らかになった。

縄文時代の遺構の空間占地については、標高的に高い部分（尾根上の平坦面）に縄文時代前期から中期のフ拉斯コ状土坑を含む土坑群と焼土遺構が確認でき、また詳細な所属時期は不明であるが縄文時代に属すると考えられる焼土遺構が検出できた。標高の低い部分（斜面下平坦面）では縄文時代の遺構は確認できなかったが、前期から中期の遺物包含層を確認した。間にあたる斜面部からは縄文時代に属すると考えられる土坑1基が確認できた。

尾根上では標高のやや低い東側に土坑が多く確認されている。遺構の広がりから更に東側に延びると考えられ、今回の調査では検出することが出来なかつた竪穴住居跡を含む集落跡が広がると推定される。フ拉斯コ状土坑の底部からは植物が炭化したものなどは確認できなかつたが、貯蔵に用いていたと考えられる。開口部が底部径より大きい土坑も尾根上と斜面部から計6基確認した。これらの土坑は確認面からの深さも浅く、フ拉斯コ状土坑とは異なる用途をもつていたと考えられる。焼土遺構は1基のみ検出した。周辺に柱穴状土坑などがないか精査を行つたが確認できなかつたため、住居などに伴う焼土ではなくその場で火を焚いた痕跡であると判断した。

斜面下平坦面から確認した遺物包含層は斜面上部からの流れ込みにより形成されたものであると考えられ、縄文時代前期前葉から中期後葉までの遺物を包含していた。土器の主体は縄文時代中期前葉から中葉にあたる大木7～8式であると考えられる。

石器類も礫石器が少なく、礫石器の中の敲磨石類が多いという出土傾向がみられる。また敲磨石類の中でも特殊磨石と呼ばれる側縁に磨面をもつ礫石器が多いことも本遺跡の特徴として挙げられる。今回の調査に成果で得られた情報は非常に多い。しかし、報告書で提示できたことは僅かに過ぎず、事実記載に終始し検討が及ばなかつた。今後の課題としたい。

引用・参考文献

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

- | | | |
|------|---------------------|----------------------------|
| 1989 | 「夏本遺跡発掘調査報告書」 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第134集 |
| 1995 | 「上八木田I遺跡発掘調査報告書」 | * |
| 1996 | 「鳩岡崎上の台跡発掘調査報告書」 | * |
| 2000 | 「畠山牧場I遺跡B地区発掘調査報告書」 | * |
| 2001 | 「清水ヶ野遺跡発掘調査報告書」 | * |
- 大槌町史編纂委員会 1966 「大槌町史 上巻」
1984 「大槌町史 下巻」

大槌町教育委員会

- | | |
|------------------|--|
| 1989 | 「大槌町遺跡分布調査報告書1 (赤浜・吉里吉里・波板地区) 大槌町文化財調査報告書第4集 |
| 崎山弁天遺跡発掘調査団 2008 | 「崎山弁天遺跡 (第Ⅱ次調査・C地点)」 |
| 中野幸大 2008 | 「大木7a～8b式土器」「絶観縄文土器」アム・プロモーション |
| 早瀬亮介 2008 | 「前期大木式土器」「絶観縄文土器」アム・プロモーション |
| 森 幸彦 2008 | 「大木9・10式土器」「絶観縄文土器」アム・プロモーション |

写 真 図 版



遺跡遠景（南西から）



調査区遠景（直上や東）

写真図版 1 調査区遠景



Ⅲ層発出状況（北から）



写真図版2 基本土層・完掘状況



1号土坑断面（南西から）



1号土坑完掘（東から）



2号土坑断面（北から）



2号土坑完掘（東から）



3号土坑断面（南から）



3号土坑完掘（東から）



4号土坑断面（東から）



4号土坑完掘（北から）

写真図版3 1～4号土坑



5号土坑断面（西から）



5号土坑完掘（南から）



6号土坑断面（北から）



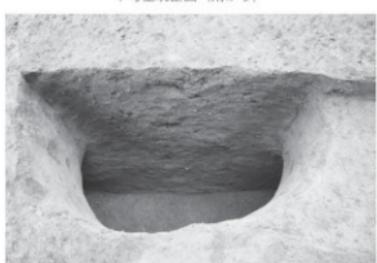
6号土坑完掘（北から）



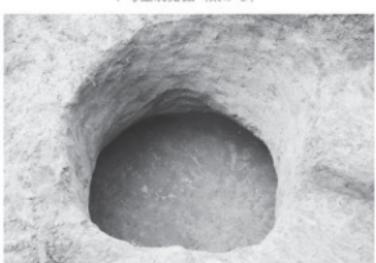
7号土坑断面（南から）



7号土坑完掘（東から）



8号土坑断面（東から）



8号土坑完掘（東から）

写真図版4 5～8号土坑



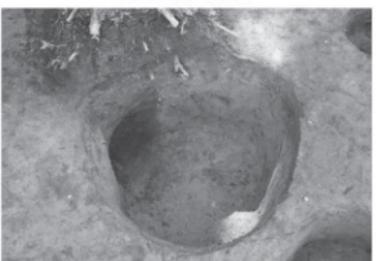
9号土坑断面（東から）



9号土坑完掘（東から）



10号土坑断面（西から）



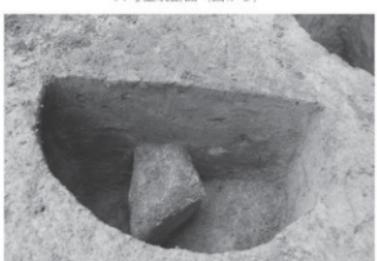
10号土坑完掘（東から）



11号土坑断面（西から）



11号土坑完掘（東から）



12号土坑断面（南から）



12号土坑完掘（西から）

写真図版 5 9~12号土坑



13号土坑断面（西から）



13号土坑完掘（北西から）



14号土坑断面（東から）



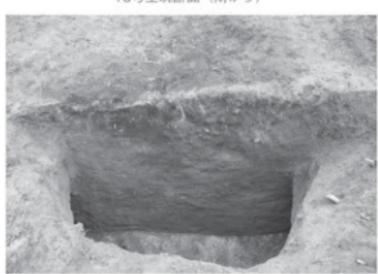
14号土坑完掘（東から）



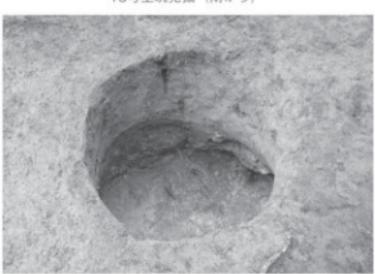
15号土坑断面（南から）



15号土坑完掘（南から）



16号土坑断面（北から）



16号土坑完掘（東から）

写真図版6 13~16号土坑



17号土坑断面（東から）



17号土坑実掘（北から）



18号土坑断面（東から）



18号土坑実掘（東から）



19号土坑断面（東から）



19号土坑実掘（西から）



20号土坑断面（東から）



20号土坑実掘（東から）

写真図版7 17~20号土坑



21号土坑断面（西から）



21号土坑完掘（東から）



22号土坑断面（東から）



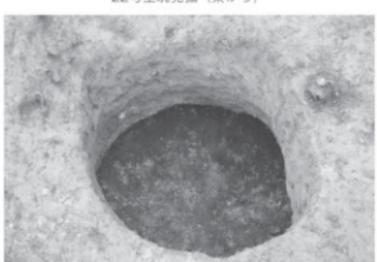
22号土坑遺物出土状況（東から）



22号土坑完掘（東から）



23号土坑断面（南から）



23号土坑完掘（南から）



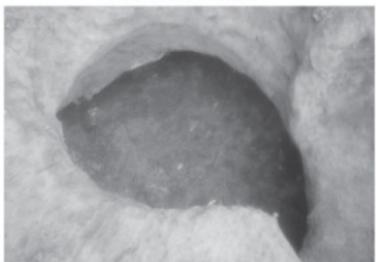
24号土坑断面（東から）



24号土坑完掘（東から）



25号土坑断面（北から）



25号土坑完掘（北から）



作業風景



26号土坑完掘（南から）



26号土坑断面（南から）



27号土坑完掘（西から）



27号土坑断面（西から）

写真図版9 24~27号土坑、作業風景



28号土坑完掘（西から）



28号土坑断面（北から）



28号土坑遺物出土状況（南から）



28号土坑遺物出土状況（東から）



29号土坑断面・完掘（西から）



1号焼土遺構完掘（北から）



遺物出土状況（東から）



遺物包含層作業風景

写真図版10 28・29号土坑、1号焼土、作業風景



写真図版11 出土遺物 (1~14)



写真図版12 出土遺物 (15~32)



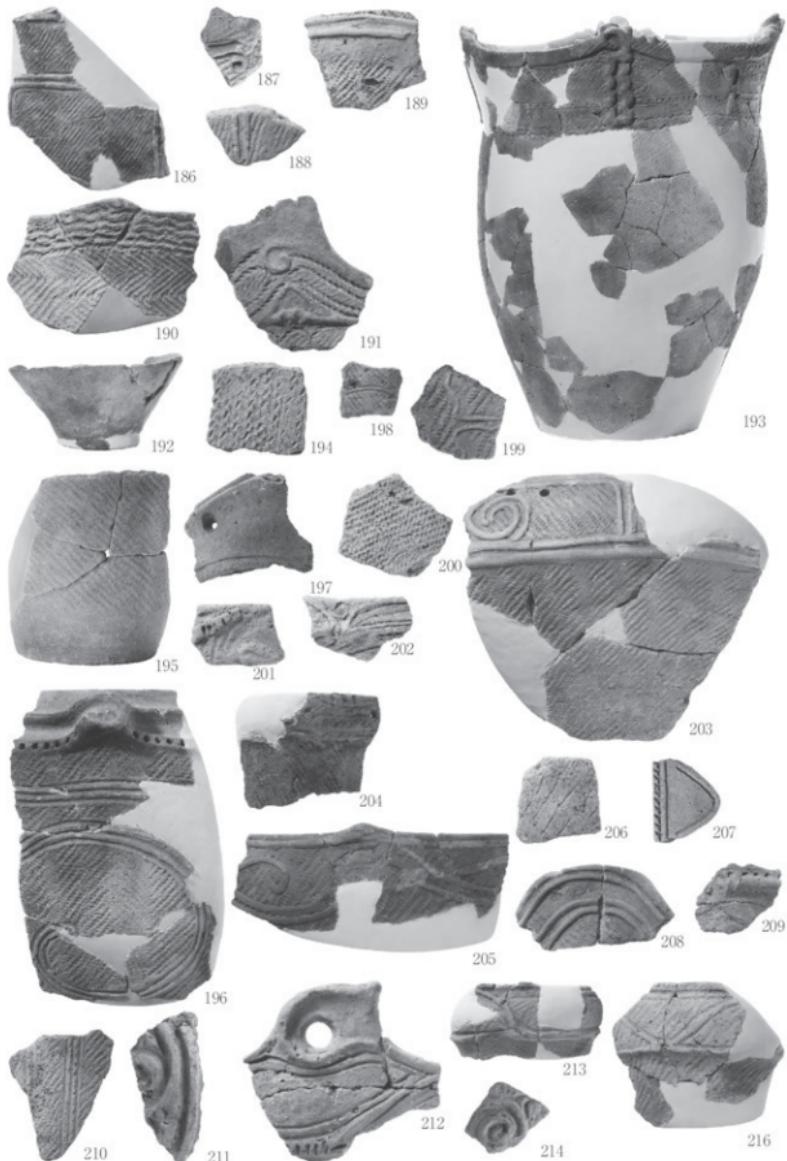
写真図版13 出土遺物 (33~66)



写真図版14 出土遺物 (67~131)



写真図版15 出土遺物（132～185）



写真図版16 出土遺物 (186~214・216)



写真図版17 出土遺物 (215・217~249)



写真図版18 出土遺物 (250~266)



写真図版19 出土遺物 (267~283)

報告書抄録

ふりがな	まついそいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	松磯道路発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第660集							
編著者名	巴 亜子							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2016年2月29日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
松磯遺跡	岩手県上閉伊郡 大槌町吉里々 第13地割字松磯 3ほか	03461	MG 23-1354	39 度 23 分 20 秒	141 度 56 分 19 秒	2013.08.01 ～ 2013.10.15 ～ 2014.11.17 ～ 2014.11.28	4,050 m ²	三陸沿岸道 路建設事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
松磯遺跡	集落	縄文時代	貯蔵穴 23 土坑 6 焼土遺構 1 遺物包含層 610 m ²	縄文土器（前期前葉～中期後葉）・石器（石片・礫石器）・鉄製品				
要約	松磯遺跡は、船越溝に注ぐ浪板川に面した緩斜面状に立地し、尾根上の平坦面からは縄文時代前期から中期に亘る土坑群と焼土遺構が確認できた。また斜面下の平坦面には流れ込みと考えられる縄文時代前期前葉から中期後葉までの遺物包含層が形成されていた。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第660集

松磯遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成28年2月22日

発 行 平成28年2月29日

- 編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
- 発 行 国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所
〒026-0301 岩手県釜石市鵜住居町第7地割13-7
電話 (0193) 28-4731
- (公財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235
- 印 刷 有限会社ジロー印刷企画
〒020-0066 岩手県盛岡市上田2丁目17番4号
電話 (019) 651-6644